

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	その他
授業科目名	キャリア教育演習Ⅰ	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	1年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	ホスピタリティ 立ち居振る舞い 基本姿勢 チームワーク		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 ホスピタリティ研修や集団作業を通じて、医療職者としての基礎を習得し、クラス内での協同作業の意味について学びます。</p> <p>到達目標 ①医療人を目指す学生としてふさわしい服装・姿勢・挨拶ができる。 ②自分に適した学習方法を習得することができる。 ③クラス内でコミュニケーションを取り協同することができる。</p> <p>実務者経験 2016年 京都医健専門学校卒業・作業療法士免許取得 2016年 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。 また、地域包括ケア病棟での作業療法を経験し、 退院支援にも携わってきた。 2021年 京都医健専門学校専任教員</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 学校規則・抗体検査について 3 社会に求められる人物像を考える(挨拶・立ち居振る舞い) 4 整理・整頓・清潔・清掃・接遇について 5 コミュニケーションスキル(他者理解・人間関係構築) 6 ホスピタリティについて(発表) 7 学習の深め方について学ぶ① 8 学習の深め方について学ぶ② 9 前期の振り返り(復習・質疑応答・まとめ) 10 作業療法士が働く施設について学ぶ① 11 作業療法士が働く施設について学ぶ② 12 計画を立てる重要性について学ぶ 13 能動的に学ぶ方法①(アクティブラーニングについて) 14 能動的に学ぶ方法②(アクティブラーニングについて) 15 後期の振り返り(復習・質疑応答・まとめ) 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	医療職者を目指す学生として普段から立ち居振る舞いについて意識して行動しましょう。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器 グループワーク(アクティブラーニング形式)		
成績評価の方法	レポート評価(50%) ホスピタリティ 試験(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	1年を通じて作業療法の魅力を感じ、将来像についてイメージしましょう。また、クラスメイトと積極的に交流し同じ目標に向かって協同するスキルを身につけましょう。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床実習Ⅰ(見学実習)	担当教官名	堂岡 悠理・学科専任教員
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	80時間
授業のキーワード	臨床にふさわしい態度・技能などを習得する		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 地域包括ケアシステムの強化に資する高度医療人の育成のために、臨床実習指導者の管理下の下で、臨床で求められるマナーを習得し、実際の作業療法を理解します。</p> <p>到達目標 ①作業療法士が働く施設について説明する事ができる ②作業療法士の役割について説明する事ができる ③見学・経験した事を適切に記録する事ができる ④作業療法士に必要な知識を説明する事ができる ⑤地域包括ケアシステムの概要を説明できる</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
	<p>【実習前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーション・レポート作成の習得 ・客観的能力試験 <p>【臨床実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的態度 ・作業療法対象患者とのコミュニケーション <p>【実習後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習報告会 ・客観的能力試験 ・個別面談 		
準備学習	日常的に挨拶、報告・連絡・相談などができるよう、意識的に行動して下さい。		
教科書・教材等	1年次で配布した、資料・教科書		
授業の形式 教育機器の活用	実習 パソコン プロジェクター 検査器具(ゴニオメーター 打腱器)		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士としての役割を理解し興味・関心を高めていきましょう。また、実習生としての立ち居振る舞いを学修し自己学習態度も身につけていきましょう。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	地域作業療法学Ⅰ	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	作業療法士の役割 地域医療 連携		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 地域リハビリテーションの基本概念と制度、関連職種などについて習得します。</p> <p>到達目標 ①社会生活資源を理解し説明できる ②地域での作業療法士の役割について説明できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 地域作業療法の基盤と背景—地域リハビリテーションの流れ</p> <p>3 地域作業療法の基盤と背景—地域リハビリテーションの概念と枠組み</p> <p>4 地域作業療法の実践の場を知る—医療施設</p> <p>5 地域作業療法の実践の場を知る—医療保険</p> <p>6 地域作業療法の実践の場を知る—介護保険</p> <p>7 地域作業療法の実践の場を知る—在宅医療</p> <p>8 まとめ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	事前に教科書を読み内容を把握		
教科書・教材等	標準作業療法学専門分野 地域作業療法第3版		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法の視点と技術を活かし、地域・街の活性化やよりよい環境にしていくという広い視野を持つことのできる力を身につけて欲しいと考えます。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法総合演習Ⅰ-1	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	基礎医学 実習		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 1年次に学習した基本の手技を応用できるよう実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①臨床における必要な知識・技術を身につけ実践する事ができる。 ②臨床における筋骨格系検査のために必要な知識・技術を身につける。</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当、また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<p>1 リスク管理について 2 コミュニケーション技法 3 車椅子介助について① 4 車椅子介助について② 5 バイタルサインについて(意識・脈拍) 6 バイタルサインについて(血圧) 7 形態測定について(四肢長・周径) 8 関節可動域測定について① 9 関節可動域測定について② 10 反射検査について① 11 反射検査について② 12 認知機能検査について①(MMSE/HDS-R) 13 認知機能検査について②(MMSE/HDS-R) 14 後期の復習・質疑応答 15 まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	授業前の課題に取り組んで予習をしておきましょう		
教科書・教材等	配布資料 標準作業療法学作業療法評価学 臨床実習とOSCE		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器		
成績評価の方法	レポート課題(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	実技を通じて臨床に必要な技術を学びましょう。 事前に予習をすることで、さらなる知識の習得に繋がります。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法総合演習Ⅰ-2	担当教官名	高橋 玲
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	医療用語、人体の構造と生理機能、疾病の成り立ち、病態		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 正常な人体の構造と機能を理解し、それらに異常生じるメカニズムを理解する。</p> <p>到達目標 医学的内容を理解するためのツール、すなわち医学的知識の導入に必要な基本的な要素を説明できる。さらに、からだの異常や疾患を理解するのに必要な知識とメカニズムを説明できる。</p> <p>実務者経験 同志社女子大学薬学部教授、京都大学医学部非常勤講師、愛媛大学医学部非常勤講師:機能形態学・病理学の授業担当歴30年、病理専門医、細胞診専門医、臨床検査専門医として医療に携わっている。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション・からだの成り立ちと生体反応 ① 2 からだの成り立ちと生体反応 ② 3 からだの成り立ちと生体反応 ③ 4 呼吸器系の成り立ちとその異常 ① 5 呼吸器系の成り立ちとその異常 ② 6 呼吸器系の成り立ちとその異常 ③ 7 循環器系の成り立ちとその異常 ① 8 循環器系の成り立ちとその異常 ② 9 循環器系の成り立ちとその異常 ③ 10 消化器系の成り立ちとその異常 ① 11 消化器系の成り立ちとその異常 ② 12 消化器系の成り立ちとその異常 ③ 13 泌尿生殖器系の成り立ちとその異常① 14 泌尿生殖器系の成り立ちとその異常② 15 まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	[レポート提出]各回の授業課題を各自で予習してから授業を受ける。		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学①解剖学②生理学(医学書院) Dr.レイの病理学講義(金芳堂)		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器・PC		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	医学用語が多く出てきます。あらかじめ専門用語や予習課題内容を予習してから授業に臨み、理解度を高めてください。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	作業療法評価学Ⅰ-1	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	作業療法と評価 評価の意義 評価の種類		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法での評価の目的と意義、最も多用されている評価法を習得します。</p> <p>到達目標 ①作業療法における評価の意義を説明できる ②作業療法の評価の目的と手段について具体的に述べられる ③評価の手段と用いられる尺度を関連づけることができる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・評価の基礎 2 領域共通の評価:面接法・観察法 3 領域共通の評価:意識の評価・バイタルサイン 4 領域共通の評価:形態測定 5 領域共通の評価:反射検査 6 中間のまとめ 7 領域共通の評価:関節可動域測定(肩関節) 8 領域共通の評価:関節可動域測定(肩関節) 9 領域共通の評価:関節可動域測定(前腕・手関節) 10 領域共通の評価:関節可動域測定(手指) 11 領域共通の評価:関節可動域測定(股関節) 12 領域共通の評価:関節可動域測定(股関節) 13 領域共通の評価:関節可動域測定(膝関節・足部) 14 領域共通の評価:関節可動域測定(頸部・体幹) 15 まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	講義中に整理が出来るように簡単には教科書に目をとおしておく		
教科書・教材等	作業療法評価学・改訂第3版-医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	実技に向けて、終了した内容は、評価ノートを作成しながら整理しておくこと		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	作業療法評価学Ⅰ-2	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	評価の理解 環境の調整		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 主に身体障害分野で多用する評価法の知識と方法を実践を通して習得します</p> <p>到達目標 ①作業療法評価を整理することが出来る ②適切に評価を選択することが出来る ③評価ノートを作成、ポイントをまとめることが出来る</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	1 オリエンテーション・評価の基礎 2 領域共通の評価:面接法・観察法 3 領域共通の評価:意識の評価・バイタルサイン 4 領域共通の評価:形態測定 5 領域共通の評価:反射検査 6 中間のまとめ 7 領域共通の評価:関節可動域測定(肩関節) 8 領域共通の評価:関節可動域測定(肩関節) 9 領域共通の評価:関節可動域測定(前腕・手関節) 10 領域共通の評価:関節可動域測定(手指) 11 領域共通の評価:関節可動域測定(股関節) 12 領域共通の評価:関節可動域測定(股関節) 13 領域共通の評価:関節可動域測定(膝関節・足部) 14 領域共通の評価:関節可動域測定(頸部・体幹) 15 まとめ 16 実技試験・試験解説		
準備学習	実技を円滑に進めるために、担当者は授業前までに準備をしておく		
教科書・教材等	作業療法評価学・改訂第3版 医学書院 著:能登真一ら、リハビリテーション基礎評価学・第2版、羊土社 著:潮美泰蔵ら PT・OTのための臨床技能とOSCE【第2版】 金原出版 才藤栄一ら		
授業の形式 教育機器の活用	実技 パソコン プロジェクター ゴニオメーター スケール 打腱器など		
成績評価の方法	パフォーマンス評価(ループリック評価) 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	グループ間での協調学習を中心にしていくので、自己にて知識の整理はおこなっておきましょう。授業に関しては、実習同様の身なりで臨むようにして下さい。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	作業療法概論	担当教官名	谷村 浩子
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	作業療法、分野と役割、各教員の専門性		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 日本の作業療法の目的・立場・役割を理解して、これから4年間で学ぶ過程と目標を理解します。</p> <p>到達目標 ①作業療法の概要を説明できる。 ②作業療法士の役割を説明できる。 ③作業の意味と目的を説明できる。</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 臨床現場では整形外科疾患、脳外科、神経内科、癌など多岐にわたる症例の診療を経験。2012年より現職。 2004年 第16回日本ハンドセラピィ学会 学術集会会長 2017年 第32回日本RAのリハビリ研究会 学術集会会長 2018年 第6回京都府作業療法学会 学術集会会長 2021年 第9回中部日本ハンドセラピィ研究会学術集会長</p>		
講義計画・内容	1 オリエンテーション・作業の意味 2 作業の治療的適用 3 作業療法の歴史 4 作業療法士に求められる資質と倫理、作業療法の理論 5 作業療法の理論 6 日本作業療法士協会とその役割、世界作業療法士連盟とその役割 小テスト 7 作業療法の仕組み 8 評価と問題点の抽出 臨床思考過程と作業療法士の自己活用 9 身体障害分野における作業療法の実際 10 精神機能分野における作業療法の実際 11 発達過程分野における作業療法の実際 12 高齢期分野における作業療法の実際 小テスト 13 作業療法士になるための過程 14 4年間の学びの過程 発表 15 小テスト(1~14回内容) まとめ 16 定期試験・試験解説		
準備学習	特に必要ありません。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 スライド・プロジェクター		
成績評価の方法	小テスト20%, 定期試験80%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士になるためには知識の習得だけでは不可能です。自分から発言して行動することが必要なので、講義だけでなくグループでの討議など自身の考えを発信でき人の意見も取り入れられるようになります。積極的に授業に参加してください。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	基礎作業学Ⅰ	担当教官名	辻井 智
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	創作活動、作業の分類、作業分析、治療と根拠		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法の基本的な思考過程を身近な作業活動を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①作業が治療法として成り立つ要件や根拠を理解し、説明できる。 ②作業療法の理論と作業分類について理解し、説明できる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つてきました。</p> <p>資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション、作業療法の成り立ち 2 作業の分類 3 作業療法の理論 4 作業と運動生理① 5 作業と運動生理② 6 作業と運動生理③ 7 作業と運動生理④ 8 作業と心理① 9 作業と心理② 10 作業と心理③ 11 作業と心理④ 12 作業とライフステージ① 13 作業とライフステージ② 14 作業とライフステージ③ 15 作業とライフステージ④、まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	基礎作業学 第3版		
授業の形式 教育機器の活用	演習 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業活動を通して、「楽しむこと」「試行錯誤すること」「作業過程でどのような身体・精神機能が用いられるか考えること」「作業過程をどう対象者に提供できるか考えること」を期待します。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	基礎作業学Ⅱ	担当教官名	辻井 智
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	創作活動 作業の分類 作業分析 評価・治療と根拠		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法の基本的な思考過程を作業療法場面で多用される活動を用いて習得します。</p> <p>到達目標 作業が治療法として成り立つ要件や根拠を理解し、説明できる 作業療法の理論と作業分類について理解し、説明できる 対象者の目的に応じた作業活動を提案できる考え方を理解し、説明できる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた</p> <p>資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	1 オリエンテーション、作業療法の理論と役割 2 作業と運動① 3 作業と運動② 4 作業と運動③ 5 作業と心理① 6 作業と心理② 7 作業と心理③ 8 作業の分析① 9 作業の分析② 10 作業の分析③ 11 作業の分析④ 12 身体機能作業療法への治療的応用① 13 身体機能作業療法への治療的応用② 14 精神機能作業療法への治療的応用① 15 精神機能作業療法への治療的応用②、まとめ 16 定期試験・試験解説		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	基礎作業学 第3版		
授業の形式 教育機器の活用	演習 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業活動を通して、「楽しむこと」「試行錯誤すること」「作業過程でどのような身体・精神機能が用いられるか考えること」「作業過程をどう対象者に提供できるか考えること」を期待します。観察が評価へ繋がることを感じてほしい。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	リハビリテーション概論	担当教官名	辻井 智
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	医療 社会福祉		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 リハビリテーションの基本概念と関わる職種の概要などを習得します。</p> <p>到達目標 ①リハビリテーションの流れについて説明できる ②医療保険のリハビリテーションについて説明できる ③介護保険のリハビリテーションについて説明できる</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つてきました 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、医療者に関する規則 2 各種保険制度① 医療保険 3 各種保険制度② 介護保険 4 身体障害者福祉法など 5 老人福祉法など 6 障害者福祉制度など 7 地域リハビリテーション 8 地域包括ケアシステム、まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	講義時に配布するレジメは、講義後に復習する事		
教科書・教材等	配布資料、PT/OT/ST/ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン、プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士が活躍する領域を知り、主に医療と福祉のリハビリテーションの役割について理解を深めてください。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	チーム医療論Ⅰ	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	リハビリテーションチーム(以下、リハチーム)、多職種連携、		
授業の概要 及び到達目標	授業の概要 作業療法に必要なチーム医療の概要について学びます。		
	<p>到達目標 ①リハチーム医療の背景、目的、構成職種を説明できる ②リハチーム医療の要素を説明できる ③リハチームにおける作業療法士の役割を説明できる</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 2016年 ひだか病院 2021年 京都医健専門学校 臨床では総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し、退院支援にも携わってきた。和歌山県作業療法士会・京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 チーム構成職種を理解する(理学療法士) 2 チーム医療の必要性、リハチーム医療の目的・効果・構成職種 3 チーム構成職種を理解する(鍼灸師) 4 チーム構成職種を理解する(トータルビューティー エステティシャン) 5 チーム構成職種を理解する(トータルビューティー 美容師) 6 チーム構成職種を理解する(言語聴覚士) 7 チーム構成職種を理解する(健康運動指導士／介護支援専門員) 8 まとめ/小テスト 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業終了後に所定用紙に授業内容のまとめを記入し、提出してください。 提出〆切は授業終了後1週間後を基本とします。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 スライド、プロジェクター、ホワイトボード		
成績評価の方法	定期試験(70%) レポート提出(30%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	<p>①チーム医療には実行力とコミュニケーション力が必要です。チーム構成職種の理解では専門職の方々が講師となり体験実技授業をグループで行います。積極的に行動してください。</p> <p>②定期試験はチーム構成職種の理解レポートからの出題も含まれます。普段から様々な視点に気づくことができる授業にしましょう。</p>		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	人間発達学	担当教官名	富松 衛
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	姿勢コントロール 身体的発達 運動発達 心理的発達		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 受胎から発生過程と各器官の発達の関連性などを習得します。</p> <p>到達目標 ①人間発達学の定義、関連用語を知り人間発達学の意義を説明できる ②胎児期からの発達の流れが理解できる</p> <p>実務者経験 2016年に作業療法士国家資格取得。作業療法士として、病院、就労継続支援B型、生活介護、放課後等デイサービス等の臨床を経験。公的機関・学校機関と協力し、社会生活への適応を支援する業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 発達概論</p> <p>2 胎児期、乳児期</p> <p>3 幼児期の発達</p> <p>4 学童期の発達、発達障害の基礎</p> <p>5 発達障害の評価と治療</p> <p>6 遊びの評価と実際</p> <p>7 脳性麻痺の基礎</p> <p>8 まとめ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	授業当日か翌日中に復習をしましょう		
教科書・教材等	「イラストでわかる人間発達学」 医歯薬出版株式会社		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士として、どの分野でも必要な知識になります。初めて聞く単語も多い為、予習・復習を行いましょう。 国家試験、臨床の知識に活かしていく様に共に学んでいきましょう。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	リハビリテーション医学	担当教官名	谷村 浩子
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	リハビリテーション 領域 病期		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 リハビリテーションの基本概念とリハビリテーションの領域などと一般的なリハビリテーションの流れなどを習得します。</p> <p>到達目標 ①リハビリテーションの領域の説明ができる ②リハビリテーションの基本的な考え方を理解し説明できる。 ③医学的リハビリテーションの分野を理解し、説明ができる。</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 臨床現場では整形外科疾患、脳外科、神経内科、癌など多岐にわたる症例の診療を経験。2012年より現職。 2004年 第16回日本ハンドセラピィ学会 学術集会会長 2017年 第32回日本RAのリハビリ研究会 学術集会会長 2018年 第6回京都府作業療法学会 学術集会会長 2021年 第9回中部日本ハンドセラピィ研究会学術集会会長</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、リハビリテーションの理念 2 リハビリテーションの領域 3 リハビリテーション医療:チームメンバーの役割 4 医学的リハビリテーションの病期 5 医学的リハビリテーションの分野 6 疾患と障害の関係:国際生活機能分類(ICF) 7 医学的リハビリテーションの流れを知る 8 医学的リハビリテーションの流れを知る 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	教科書を読むなどの予習をして下さい		
教科書・教材等	配布資料、PT/OT/ST/ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン、プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	リハビリテーションとはいったい何をすることなののかを学びましょう。どのような領域がある、どのような方法で対象者の方にアプローチされているのかをグループ学習も取り入れながら考えます		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	栄養学	担当教官名	山本 千恵
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	栄養素の代謝 栄養素の役割 人体の機能維持 リハビリテーション医療		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 健康を維持するための栄養とその指標、食事法などについて学ぶ。</p> <p>到達目標 ①三大栄養素の消化、吸収と体内での代謝、排泄について理解できる ②正常な栄養状態を維持する栄養素の必要量の考え方について理解できる ③リハビリテーション医療について説明できる ④講義内容を振り返り、栄養状態を維持・改善するための栄養補給について理解し、説明することができる</p> <p>実務者経験 管理栄養士として実務経験を有する。 平成16年～平成18年3月まで病院の栄養管理室に勤務し、心臓疾患をはじめとする様々な疾患に対する栄養指導を実施。平成18年～平成21年まで社会福祉法人に勤務し、高齢者の栄養ケアマネジメント業務を行っていた。現在は高齢者をはじめとする様々な年齢の市民に対して栄養情報を提供する地域活動をはじめ、保育者養成施設において栄養に関する授業を担当している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションにおける栄養知識の重要性について 栄養の基礎①(糖質、食物繊維) 2 栄養の基礎②(脂質、たんぱく質) 3 栄養の基礎③(ビタミン、ミネラル、水) 4 栄養の基礎④(栄養素の消化・吸収について) 小テスト 5 栄養の基礎⑤ (エネルギー代謝、日本人の食事摂取基準について) 6 ライフステージと栄養 (乳児期～高齢者まで各ライフステージにおける栄養について) 7 多職種におけるチームアプローチについて 小テスト 8 臨床栄養、まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	1回目の授業で授業計画表を配布します。授業日程、授業内容を確認し、教科書及び配布プリントをよく読み、予習と復習に取り組み理解を深めてください。また、授業内で小テストを実施します、説明する該当箇所を復習し取り組んでください。		
教科書・教材等	専門基礎分野 栄養学 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パワーポイント使用		
成績評価の方法	小テスト(30%) レポート課題(10%) 定期試験(60%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	リハビリテーションと栄養学は密接な関係にあります。本講義では栄養学の基本的な知識を習得するとともに、リハビリテーションを必要とする方々に役立つ栄養の知識も習得できるよう、授業を進めていきます。また、授業内で小テストを2回実施し、理解度を評価していきます。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野		
授業科目名	臨床心理学	担当教官名	住友 春美		
対象学生	1年	履修学期	後期		
必修・選択の別	必修	授業回数	8回		
授業のキーワード	精神障害 精神障害とライフサイクル 精神療法				
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 対象者の状況を理解・対応するポイントを心理学的観点から学びます。</p> <p>到達目標 ①精神における疾患の症状と治療について理解し、説明できる ②ライフサイクルにおける精神障害・心理社会的問題について理解し、説明できる。 ③精神療法について、その治療について理解し、説明できる</p> <p>実務者経験 臨床経験24年。大学の付属病院・精神神経科を経て、精神科・心療内科病院に所属。その後、現在、主として神経内科・精神科診療所に所属。心理学、臨床心理学に基づき、心身に疾患を有する患者の心理面を対象として、心理検査、心理面接、集団精神療法にて疾患・病態のアセスメント、治療を行っている。その他、発達・能力・コミュニケーションに問題を有する身体障害者・知的障害者を対象に発達・能力をアセスメントし、その支援に関わる人にコンサルテーションを行っている</p>				
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 作業療法と臨床心理学の関わり、精神的健康、臨床心理学概論(歴史、現状)</p> <p>2 心理検査、神経症とDSM診断体系、不安障害</p> <p>3 身体表現性障害、解離性障害、適応障害</p> <p>4 パーソナリティ障害、摂食障害、統合失調症</p> <p>5 思考障害、依存症、気分障害、てんかん</p> <p>6 睡眠障害、性障害、子どもの精神障害とその周辺</p> <p>7 老化とその障害、精神障害とライフサイクル</p> <p>8 精神療法 まとめ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>				
準備学習	心理学で学んだ、感覚、記憶、学習、発達について、再度、併せて理解を深めておく。臨床心理学で学んだ疾患名と、その症状を理解しておく。各精神療法と、その内容を理解しておく。予習・復習を行うこと。				
教科書・教材等	医学書院 標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野) 臨床心理学				
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器				
成績評価の方法	定期試験(100%)				
担当教官から (履修にあたっての留意点)	傷ついた人と関わることの多い作業療法士を目指すにあたって、人の心理的側面にある生きにくさを理解するため、臨床心理学の知識は必要となります。本講義では国家試験に対応するための知識はもちろん、臨床のイメージが膨らむよう、臨床で関わるであろう症例についても具体的にお話したいと考えています。				

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖生理学 I-1(内科系)	担当教官名	森嶋 祥之
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	循環、呼吸		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 循環・消化・排泄・代謝に関する器官と構造等について学ぶ</p> <p>到達目標 構造と機能の基本がわかること</p> <p>実務者経験 卒業後国家資格を取得 1978年 臨床検査技・薬剤師 1978年～2021年 近畿大学病院・中央臨床検査部勤務 主な著書:薬剤師のための基礎からの検査値の読み方</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション・総論</p> <p>2 生命現象と人体①</p> <p>3 生命現象と人体②</p> <p>4 血液①血液の組成と機能</p> <p>5 血液②赤血球、白血球</p> <p>6 血液③血小板</p> <p>7 血液④血漿、血液型</p> <p>8 小テスト</p> <p>9 心臓と循環①血液の循環、刺激電動系</p> <p>10 心臓と循環②血液の拍と血圧</p> <p>11 心臓と循環③心機能曲線、血圧の調節</p> <p>12 心臓と循環④静脈還流、臓器循環</p> <p>13 呼吸とガスの運搬①外呼吸・内呼吸、気道・肺胞、呼吸運動</p> <p>14 呼吸とガスの運搬②ガス交換とガス運搬、呼吸の調節病的呼吸</p> <p>15 まとめ</p> <p>16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	該当する教科書の箇所を読んでおくこと		
教科書・教材等	教科書(標準理学療法・作業療法 解剖学／生理学) パワーポイント		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	サブテキストとしてpptを使用しますが、「生理学」の教科書も毎回必ず持参してください。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖生理学 I-2(内科系)	担当教官名	森嶋 祥之
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	排泄消化・吸収、代謝、ホメオスターシス		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 循環・消化・排泄・代謝に関する器官と構造等について学ぶ</p> <p>到達目標 構造と機能の基本がわかること</p> <p>実務者経験 卒業後国家資格を取得 1978年 臨床検査技・薬剤師 1978年～2021年 近畿大学病院・中央臨床検査部勤務 主な著書:薬剤師のための基礎からの検査値の読み方</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 尿の生成と排泄①腎臓の役割、腎臓の構造 2 尿の生成と排泄②尿の生成、クリアランス 3 尿の生成と排泄③排尿、排尿異常 4 消化と吸収①消火器の役割、口腔内消化と嚥下、食道 5 消化と吸収②胃の役割と消化 6 消化と吸収③十二指腸、空腸、回腸 7 消化と吸収④大腸の役割、肝臓の役割 8 小テスト 9 内分泌①内分泌機能とホルモン(1) 10 内分泌②内分泌機能とホルモン(2) 11 内分泌③ホルモンの作用(1) 12 内分泌④ホルモンの作用(2) 13 代謝と体温①栄養素、エネルギー代謝 14 代謝と体温②体温 15 まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	該当する教科書の箇所を読んでおくこと		
教科書・教材等	教科書(標準理学療法・作業療法 解剖学／生理学) パワーポイント		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	サブテキストとしてpptを使用しますが、「生理学」の教科書も毎回必ず持参してください。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖生理学Ⅱ-1(神経系)	担当教官名	糟谷 圭吾
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	神経系の構成 脳室系 神経系の発生 中枢神経系 脳の高次機能 興奮の発生、伝導・伝達		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法学の基礎となる人体の生命現象と正常構造およびその機能的理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。特に中枢神経系について学ぶ。</p> <p>到達目標 ①生命維持にかかせない概念を習得し、本授業終了時には人体の構造・機能について説明ができるようになる。 ②当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。</p> <p>実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を受ける。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2001歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/神経系の区分 2 神経系の構成 神経組織 3 中枢神経系の構成 末梢神経系の構成 4 隹膜と脳室系 5 神経系の発生 脊髄、脳、末梢神経系 6 脊髄の外形と横断面 7 延髄、橋 8 中脳、網様体 9 小脳の外形と区分 10 小脳の内部構造 11 間脳 12 大脳半球(終脳) 13 脳の高次機能 14 上行性神経路 15 下行性神経路 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	解剖学の知識の暗記、当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域の概念		
教科書・教材等	「解剖学」改訂 第5版 医学書院 「生理学」改訂 第5版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期テスト(100%) 定期テストにて知識の到達評価を行う。		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	正常な人体の構造・機能に関する理解は作業療法士として必須項目である。ともすれば、暗記に偏りがちな分野であるが、着実に学習していく欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため、予習、復習は必須条件である。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖生理学Ⅱ-2(神経系)	担当教官名	糟谷 圭吾
対象学生	1 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	脊髄神経後枝、頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢、自律神経系		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 中枢神経系及び末梢神経系の構造・働きについて学ぶ。</p> <p>到達目標 生命維持にかかせない概念を習得し、本授業終了時には人体の構造・機能について説明ができるようになる。</p> <p>実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を受ける。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2001歯学部付属病院に所属する、主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 頸神経と頸神経叢 2 腕神経叢① 3 腕神経叢② 4 胸神経と腰神経叢① 5 腰神経叢② 6 仙骨神経叢① 7 仙骨神経叢② 8 尾骨神経叢 9 脳神経① 10 脳神経② 11 脳神経③ 12 自律神経系① 13 自律神経系② 14 末梢神経の機能による分類 15 末梢神経系のまとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	前提:この授業を受講するにあたり解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域の概念の先行予習が必要である。当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。		
教科書・教材等	「解剖学」改訂 第5版 医学書院 「生理学」改訂 第5版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	正常な人体の構造・機能に関する理解は作業療法士として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。ともすれば、暗記に偏りがちな分野であるが、着実に学習していく欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため、予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖生理学III-1(運動系)	担当教官名	糟谷 圭吾
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	骨の形態 骨の構造と機能 リモデリング 骨の連結 関節の構造と機能		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法学の基礎となる人体の生命現象と正常構造およびその機能の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>到達目標 ①生命維持にかかせない概念を習得し、本授業終了時には人体の構造・機能について説明ができるようになる。 ②当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得る事ができる。</p> <p>実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を収める。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2001歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/骨格総論 骨の形態 2 骨の構造 血管と神経 3 骨の機能と骨の発生 4 骨のリモデリング 5 骨格各論 頭蓋 6 脊柱 7 胸郭 8 上肢の骨 ① 9 上肢の骨 ② 10 下肢の骨 ① 11 下肢の骨 ② 12 骨の連結 13 関節の構造と機能 14 頭蓋、脊柱、胸郭の連結 15 上肢・下肢の連結/まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	解剖学的知識、生理学、運動学等の関連領域の概念の先行予習が必要である。		
教科書・教材等	「解剖学」改訂 第5版 医学書院 「生理学」改訂 第5版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 骨模型 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期テスト(100%) 定期テストにて知識の到達評価を行う。		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	正常な人体の構造・機能に関する理解は作業療法士として必須項目である。とすれば、暗記に偏りがちな分野であるが、着実に学習していく欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため、予習、復習は必須条件である。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	運動学Ⅰ	担当教官名	谷村 浩子
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	骨・関節・韌帯・筋・関節の種類・肘関節の運動		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 運動の基本概念と運動に関する器官と仕組みについて習得します</p> <p>到達目標 ①運動器の構造と機能について説明できる ②肘関節、前腕の構造について説明できる ③関節運動に必要な筋の起始停止・支配神経を説明できる</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 臨床現場では整形外科疾患、脳外科、神經内科、癌など多岐にわたる症例の診療を経験。2012年より現職。 2012年京都医健専門学校入職 2004年 第16回日本ハンドセラピィ学会 学術集会会長 2017年 第32回日本RAのリハビリ研究会 学術集会会長 2018年 第6回京都府作業療法学会 学術集会会長 2021年 第9回中部日本ハンドセラピィ研究会学術集会会長</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 動きの方向の復習、運動器の構造と機能</p> <p>2 運動器の構造と機能 関節と骨</p> <p>3 運動器の構造と機能 運動軸の理解</p> <p>4 運動器の構造と機能 運動器の構造と機能</p> <p>5 生体力学 てこ</p> <p>6 筋の起始停止、骨の部位の名称</p> <p>7 筋の起始停止、骨の部位の名称</p> <p>8 筋の起始停止、骨の部位の名称</p> <p>9 筋の起始停止、末梢神経の支配筋</p> <p>10 筋の起始停止、末梢神経の支配筋</p> <p>11 肘関節・前腕の運動学 肘関節の構造</p> <p>12 肘関節・前腕の運動学 関与する筋</p> <p>13 肘関節・前腕の運動学 関与する筋</p> <p>14 肘関節・前腕の運動学</p> <p>15 まとめ 国家試験演習</p> <p>16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	受講するにあたり解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、生理学、運動学等の関連領域の概念の先行予習が必要である。		
教科書・教材等	理学療法・作業療法テキスト 運動学 講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器、模型等		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	正常な人体の構造・機能に関する理解は作業療法士として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。毎回の講義が膨大のものとなるため、予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	心理学	担当教官名	住友 春美
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	感覚・知覚、記憶、知能、学習、感情、欲求・適応、パーソナリティ、発達		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 心理学の基本概念や青年・障がい者心理について習得します。</p> <p>到達目標 ①感覚・知覚、記憶、思考・判断、感情、性格、さらにその発達と社会的関係などの心的過程について理解し、説明できる。 ②心の作用の結果としてあらわれる反応や行動、その反応や刺激を引き起こす刺激や環境について理解し、説明できる。 ③ライフサイクルにおける心理的特徴・心理的問題を理解し、説明できる。</p> <p>実務者経験 臨床経験24年。大学の付属病院・精神神経科を経て、精神科・心療内科・神経内科、福祉施設に所属。心理学、臨床心理学に基づき、心身に疾患を有する患者、発達・能力・コミュニケーションに問題を有する障害者を対象に、心理検査、心理面接、集団精神療法にて、疾患・病態のアセスメント、治療を、また、その支援者にコンサルテーションを行っている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・心理学とは 2 感覚・知覚① 3 感覚・知覚② 4 記憶と忘却① 5 記憶と忘却② 6 知能① 7 知能② 8 学習 9 感情・情動・気分 10 欲求・適応・不適応① 11 欲求・適応・不適応② 12 パーソナリティ 13 社会と集団 14 発達 15 ライフサイクルと心理的特徴・心理的問題・まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	心理学で学ぶ心的過程について、その内容を理解しておく。予習・復習を行う。		
教科書・教材等	医学書院 系統看護学講座 基礎分野 心理学		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士を目指すにあたり、人間一般の心的過程についての基本的知識は不可欠です。自己理解と対応について知り、援助する相手を理解し、適切に思いを巡らせる事をを目指し、お話しします。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	人間関係論	担当教官名	辻井 智
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	人間関係 コミュニケーション 自己 集団		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 人間関係の基本概念や自己認識と協調関係等について習得します</p> <p>到達目標 社会人としてのマナー、コミュニケーションを理解し、実施できる 臨床で役立つマナー、コミュニケーションを理解できる</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つ てきた。</p> <p>資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、人間関係とは 2 対人認知 3 パーソナリティ 4 コミュニケーションとチャネル 5 感情 6 薔薇と欲求不満 7 ストレス 8 援助行動・援助要請 9 人間関係の理解 10 カウンセリング 11 モチベーション 12 チームとリーダーシップ 13 コーチング 14 集団 15 人間関係を難しくする障害／まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	配布資料、メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	人間関係は、自分自身がその時々の環境・立場により、求められたり働きかけたりする内容が異なります。自分自身を観察し、これから行動へ役立ててください。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	健康科学	担当教官名	辻井 智
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	健康、生活習慣病、予防効果		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 健康の定義、健康を維持するための条件、方法等について習得します。</p> <p>到達目標 ①日常生活活動と身近なスポーツやレクリエーションの種目の類似点を理解する。 ②気軽にできる体操や余暇活動を理解する。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つてきた。 資格：作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、生活習慣病 2 運動と骨格筋 3 運動と呼吸 4 運動と循環 5 運動と自律神経 6 運動と神経 7 運動と認知機能 8 心身の健康、まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	健康・運動の科学、配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン、プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	治療手段へ応用するためには、実践できることが条件です。気晴らし、娯楽、余暇、とにかくリラックスして楽しんで参加してください。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	健康科学演習	担当教官名	辻井 智
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	健康、生活習慣病、予防効果、運動処方		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法現場で健康を維持する体の使い方等を習得します。</p> <p>到達目標 ①演習へ参加し、主な種目を体験する。 ②リーダーとして進行することを体験する。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営、レクリエーションの企画・リーダー役を経験した。 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、介護予防 2 転倒予防運動 3 認知症予防運動 4 肥満者へ運動指導 5 関節痛のある方へ運動指導 6 筋力低下者への運動指導 7 健康チャック 8 環境と健康、まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	健康・運動の科学		
授業の形式 教育機器の活用	演習 パソコン、プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	治療手段へ応用するためには、実践できることが条件です。気晴らし、娯楽、余暇、とにかくリラックスして楽しんで参加してください。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	情報処理	担当教官名	深津 富栄
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	情報処理スキルアップ Word Excel PowerPoint アクセシビリティ プレゼンテーション タイピング		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 電子カルテ作成・発表のためWord・Excel・PowerPointの使用法を学びます。</p> <p>到達目標 ①Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高い文書が作成できる。 ②Excelを使用し、効率の良いデータの処理分析、目的に応じた適切な資料作成ができる。 ③PowerPointを使用し、見やすく説得力のあるスライドを作成し、作成したスライドを使って、内容をわかりやすく発表することができる。 ④就職後のOA処理業務に役立てることができる。</p> <p>実務者経験 Microsoft オフィシャル・トレーナーとして、2000年より滋慶学園・大学で情報処理・MOS対策授業の教鞭を取り、約1万人近くを合格に導いています。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション Windows基礎 Word2019① 2 Word2019② 3 Word2019③ 4 Word2019④ 5 Excel2019① 6 Excel2019② 7 Excel2019③ 8 Excel2019④ 9 Excel2019⑤ 10 PowerPoint2019① 11 PowerPoint2019② 12 PowerPoint2019③ 13 PowerPoint2019④ 14 PowerPoint2019⑤ 15 まとめ 研究発表会 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	パソコンの基本操作(入力、保存方法など)を確認しておいてください。		
教科書・教材等	よくわかる Word2019 & Excel2019 & PowerPoint2019 FOM出版		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚教材、PC(PCルーム)		
成績評価の方法	定期試験70% PowerPoint発表30%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	Word・Excel・PowerPointは実務で必須のアプリケーションです。適正かつ効率的に使いこなせるよう、スキルアップを目指していきます。自分で効率よく操作が出来るよう積極的に取り組んでください。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	文章の理解と表現Ⅱ	担当教官名	山田 涼子
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	言語化 コミュニケーション力 記録・報告 視野拡大		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 文章を読み解く・まとめる・作文するためのポイントを学びます。</p> <p>到達目標 ①言葉を駆使し、自らの想いや考えを他者に伝える能力を習得する。 ②価値観の多様性を知り、多角的な物の見方を身につけて視野を広げる。</p> <p>実務者経験 25年以上、ライター・編集者として活動。取材を通して得たヒアリング力・洞察力・観察力・文章作成力を活かし、2009年から大学・専門学校・高等学校にて現代文・小論文などの指導を担当。社会人を対象としたビジネスライティング講座の講師も務める。「自己と向き合い、自らの想いや考えを言語化して伝え、他者と共有すること」の重要性を問う指導を行う。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 夏季休暇課題「セブンルール」発表 2 他者を知る⑥ 他者の悩みを知るⅠ 3 他者を知る⑦ 他者の悩みを知るⅡ 4 世界を知る④ ゲストⅣ 5 社会問題を考える⑤ 身近な問題について考察するⅠ 6 社会問題を考える⑥ 身近な問題について考察するⅡ 7 世界を知る⑤ 医療漫画＆医療映画(レビュー作成) 8 社会問題を考える⑦ SDGsについて 9 世界を知る⑥ ゲストⅤ 10 自己を知る③ 倾聴と発信:ジョハリの窓 11 社会問題を考える⑧ 身近な問題を提議するⅠ 12 社会問題を考える⑨ 身近な問題を提議するⅡ 13 世界を知る⑦ ゲストⅥ 14 自己を知る④ 画像で自己紹介 15 まとめ 「理想の作業療法士とは」 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・使用テキストの予習復習(毎回小テストを実施) ・日常生活における言葉の意味調べの習慣化 ・自らの意見の明確化・言語化 		
教科書・教材等	「入学前から学べる！作業療法士のための漢字・熟語」		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚教材		
成績評価の方法	定期試験 70% / 平常点(出席率、小テストの成績、課題提出率) 30%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	<p>作業療法士を目指す上で、カウンセリングやリハビリテーションを通じた患者や家族とのコミュニケーションは必須です。また、医師をはじめとする周囲の医療従事者と円滑なチーム医療に取り組むためにも、自己発信力・情報伝達力・傾聴力などが求められます。本講義では、国家試験に対応する基礎的言語力はもちろん、様々な演習を通して「想いが伝わる」ために必要な総合的文章力の向上を目指します。</p> <p>「伝わらない」のは「伝えてない」ことと同だと肝に銘じて、相互に「伝わる」努力(観察、思いやり、譲り合い等)を常に心掛けてください。</p>		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	文章の理解と表現Ⅰ	担当教官名	山田涼子
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	インプット&アウトプット、思考・判断、共有・共感		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 用語の読み方・意味、文章を理解するためのポイント等を学びます。</p> <p>到達目標 ①一般教養レベルから医学用語まで、国家試験対策としての語彙について読み・書きのスキルおよび意味を習得する。 ②医療や社会の問題について考え、理解を深める。</p> <p>実務者経験 25年以上、ライター・編集者として活動。取材を通して得たヒアリング力・洞察力・観察力・文章作成力を活かし、2009年から大学・専門学校・高等学校にて現代文・小論文などの指導を担当。社会人を対象としたビジネスライティング講座の講師も務める。「自己と向き合い、自らの想いや考えを言語化して伝え、他者と共有すること」の重要性を問う指導を行う。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション デイリーノート／自己発信力とは？ 2 自己を知る① マンダラチャート 3 自己を知る② 植松努『思うは招く』から考える「強み」 4 他者を知る② 十人十色ゲーム 5 他者を知る③ グループディスカッション 6 他者を知る④ NASAゲーム 7 社会問題について考える① コロナ禍におけるニュースタンダードについて 8 世界を知る① ゲストⅠ 9 社会問題を考える② 安楽死・尊厳死(終活)について 10 社会問題を考える③ QOLについて 11 世界を知る② ゲストⅡ 12 社会問題を考える④ LGBTQIについて 13 世界を知る③ ゲストⅢ 14 他者を知る⑤ 他己紹介(インタビューとまとめ) 15 まとめ 「作業療法士を目指す理由」 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	・使用テキストの予習復習(毎回小テストを実施)、時事問題に关心を持つ心掛け。		
教科書・教材等	「入学前から学べる！作業療法士のための漢字・熟語」		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚教材		
成績評価の方法	定期試験70%／平常点(出席率、小テストの成績、課題提出率)30%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士を目指す上で、カウンセリングやリハビリテーションを通じた患者や家族とのコミュニケーションは必須です。また、医師をはじめとする周囲の医療従事者と円滑なチーム医療に取り組むためにも、自己発信力・情報伝達力・傾聴力などが求められます。本講義では、国家試験に対応する基礎的言語力はもちろん、様々な演習を通して「想いが伝わる」ために必要な総合的文章力の向上を目指します。「伝わらない」のは「伝えてない」ことと同じだと肝に銘じて、相互に「伝わる」努力(観察、思いやり、譲り合い等)を常に心掛けてください。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	医学総論	担当教官名	渡邊 弘樹
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	人体器官組織の形態 器官組織の機能 疾患病態との融合知識		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 医学の基本理念や日本の医学制度について学びます。</p> <p>到達目標 ①細胞組織レベルの変化が病態と結びつくことを概説できる ②消化器系、呼吸器系、内分泌系、泌尿生殖器系、中枢神経系の各器官、組織、細胞レベルの特徴について、形態と生理機能的に説明できる。 ③解剖と生理学を融合した各臓器器官の説明ができる。</p> <p>実務者経験 前解剖学大学教授、医学博士(岡山大学)、歯科医師</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 細胞① 2 細胞②と活性酸素フリーラジカル 3 皮膚と消化器系Ⅰ(口腔、咽頭) 4 消化器系Ⅱ(食道、胃、小腸、大腸) 5 消化器系Ⅲ(肝臓、胆嚢、脾臓) 6 消化器系Ⅳ(食道、胃、小腸、大腸) 7 まとめ 融合理解の確認 8 内分泌系(脾臓、副腎、甲状腺、下垂体) 9 心臓と血液循環器系 10 呼吸器系(鼻腔、喉頭、気管、肺) 11 腎臓と泌尿生殖器系 12 感覚器系 13 中枢神経系 14 末梢神経系 15 まとめ (到達目標チェックポイント) 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	特記無し		
教科書・教材等	1標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 医学書院 2 同生理学 3 配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義 特記無し		
成績評価の方法	中間試験、定期試験(合わせて100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	限られた講義時間ですべての必要項目を学ぶため、1講義あたりの進度が速い。よって、講義時に配布される穴埋め講義ノートプリントを利用した講義終了後の復習が、必要である。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	その他
授業科目名	国際教育実習	担当教官名	辻井 智
対象学生	2年	履修学期	通年
必修・選択の別	選択	授業回数	23回
授業のキーワード	海外 国際教育		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 海外の作業療法を海外研修を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①海外で取り組まれている作業療法のプロセスについて説明することができる。 ②国内と国外の医療制度の違いを学修し、臨床実習に向けて知識の向上を図ることができる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つてきた 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 17 グループディスカッション②</p> <p>2 医療用語学習(英語)① 18 グループディスカッション③</p> <p>3 医療用語学習(英語)② 19 グループディスカッション④</p> <p>4 海外における作業療法士の現状 20 グループ 発表・検討会①</p> <p>5 海外における作業療法士の展望 21 グループ 発表・検討会②</p> <p>6 国内・国外の作業療法の違い① 22 グループ 発表・検討会③</p> <p>7 国内・国外の作業療法の違い② 23 まとめ</p> <p>8 国内・国外の作業療法の違い③</p> <p>9 学校現場における作業療法①</p> <p>10 学校現場における作業療法②</p> <p>11 小児作業療法-理論と応用</p> <p>12 小児作業療法-感覚伝達処理</p> <p>13 高齢者作業療法①</p> <p>14 高齢者作業療法②</p> <p>15 高齢者作業療法③</p> <p>16 グループディスカッション①</p>		
準備学習	国外の作業療法実践を予習しておく。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器使用 グループワーク		
成績評価の方法	レポート課題100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	国際社会で活躍するために、国内と国外の作業療法実践の違いについて理解します。また臨床現場で英語表記の医療用語にも対応できるように学習します。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	その他
授業科目名	環境整備実習	担当教官名	辻井 智
対象学生	2年	履修学期	通年
必修・選択の別	選択	授業回数	23回
授業のキーワード	環境整備 環境適応 自助具 バリアフリー		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 障害者・高齢者に適した環境にすることを実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①健常者と障害者・高齢者の生活環境の違いを説明することができる。 ②主な福祉用具・自助具の名称や使用方法を理解し、説明できる。 ③日本の住環境の現状について理解する。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つてきた 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	1 オリエンテーション 17 移動動作 2 福祉用具総論 定義と歴史 18 歩行・歩容 3 福祉用具と作業療法士の役割① 19 食事動作① 4 福祉用具と作業療法士の役割② 20 食事動作② 5 演習① バリアフリー展 21 グループ発表① 6 演習② バリアフリー展 22 グループ発表② 7 バリアフリー展 レポート 作成① 23 グループ発表③・まとめ 8 バリアフリー展 レポート 作成② 9 日本の住宅環境① 10 日本の住宅環境② 11 身体障害者の特徴① 12 身体障害者の特徴② 13 高齢者の特徴① 14 高齢者の特徴② 15 床上動作 16 起居動作		
準備学習	配布資料を確認しておいてください。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器使用 グループワーク		
成績評価の方法	レポート課題100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	身近な日常生活環境の特徴を知り、当たり前に感じていることが個人により差があることを知ってほしい。バリアフリーや福祉用具などについても特徴を理解してほしい。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	その他
授業科目名	キャリア教育演習Ⅱ	担当教官名	辻井 智
対象学生	2年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	コミュニケーション 自己分析 臨床実習 学習の継続		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法士を目指すための学業への取り組み方、臨床現場で求められる行動で求められる行動やコミュニケーション法について、体験を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①学校規則を理解し倫理について理解する。 ②臨床実習に必要な情意領域について理解する。 ③勉強方法を習得し、学びを継続することができる。 ④コミュニケーション技能を習得し仲間と協同することができる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つてきた 資格：作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 勉強方法について学ぶ① 2 勉強方法について学ぶ② 3 学校規則・抗体検査について 4 能動的に学ぶ手法(アクティブラーニング) 5 コミュニケーションスキル(他者を理解して人間関係をつくるための技法) 6 コミュニケーションスキル(コミュニケーションテクニック) 7 社会に求められる人物像を考える 8 勉強計画を立てる 9 前期の復習・質疑応答 10 基礎医学について(能動的に学ぶ方法) 11 基礎医学について(能動的に学ぶ方法) 12 臨床実習前演習(身だしなみ 電話対応) 13 臨床実習前演習(接遇 報告・連絡・相談) 14 臨床実習前演習(レポート作成時の注意点 個人情報の取り扱い) 15 まとめ・臨床実習前演習(質疑応答・グループワーク) 		
準備学習	配布資料を復習しておいてください。普段の生活から立ち居振る舞いを意識してください		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器使用 グループワーク		
成績評価の方法	レポート課題100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	前半：第1回～第8回、後半：第9～16回。 1年間を計画的に学習し、専門職に必要な態度・知識を習得します。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床実習Ⅱ(見学実習)	担当教官名	辻井 智・学科専任教員
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	80時間
授業のキーワード	情意領域 認知領域 精神運動領域 実習報告		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 地域包括ケアシステムの強化に資する高度人材医療人材の育成のために、臨床実習指導者の管理の下で、臨床で求められるマナーを習得し実際の作業療法を理解します。</p> <p>到達目標 ①実習生として適切な行動をとり常識的態度を身につける ②臨床現場を見学し、作業療法士としての役割を理解する ③臨床実習指導者のもと、評価手段を体験し身につける ④実習を通して、自己管理を行うことができるようになる ⑤地域包括ケアシステムの概要を説明できる</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つてきた 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<p>【実習前】</p> <p>実習オリエンテーション・客観的能力試験</p> <p>【臨床実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的態度・基本的臨床技能(評価)・基本的臨床技能(介助) ・作業療法管理・運営・役割 <p>【実習後】</p> <p>実習報告会・客観的能力試験 個別面談</p>		
準備学習	実習生としての立ち居振る舞いについての復習、知識・技術の復習		
教科書・教材等	所有している教科書・資料等		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器(レポート作成・報告会等)		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士としての役割を理解し興味・関心を高めてください。また、実習生としての立ち居振る舞いを学修し自己学習態度も身につけてください。		

令和5年度京都医健専門学校授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	地域作業療法学Ⅱ	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	共生社会 まちづくり 障がい者スポーツ		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 地域リハビリテーションの作業療法士の関わりについて習得します。</p> <p>到達目標 ①生活構造の視点と地域作業療法の共通性について説明できる ②まちづくりについて地域の例をもとに文脈的に理解できる ③身近な地域をもとに地域作業療法の実践を説明できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 2 地域作業療法の枠組み 3 地域作業療法の枠組み 4 共生社会とは 5 共生社会とは 6 住環境と地域づくりを考察する 7 集団支援プログラムと地域づくり 8 障がい者スポーツ(ブラインド) 9 障がい者スポーツ(ブラインド) 10 ユニバーサルスポーツ考察 11 ユニバーサルスポーツ考察 12 ユニバーサルスポーツ実施 13 ユニバーサルスポーツ実施 14 ユニバーサルスポーツ実施 15まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	事前に教科書を読み内容を把握		
教科書・教材等	標準作業療法学専門分野 地域作業療法第3版		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚教材使用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法が対象とする領域は、医療機関から地域へ広がっています。広い視野で地域を捉えられるようにしましょう。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法総合演習Ⅱ-1	担当教官名	高橋 玲・辻井 智
対象学生	2 年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	医療用語 人体の構造と生理機能 疾病の成り立ち 病態		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 人体の構造と機能について学ぶ。</p> <p>到達目標 内臓系(循環器系、呼吸器系、消化器系および泌尿・生殖器系)の基本構造とその生理機能について理解し、疾患・病態を考えるのに必要な解剖生理学的基盤をつくることを目標とする。</p> <p>実務者経験 同志社女子大学薬学部教授、京都大学医学部非常勤講師、愛媛大学医学部非常勤講師:機能形態学・病理学の授業担当歴30年、病理専門医、細胞診専門医、臨床検査専門医として医療に携わっている。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション・呼吸器系器官の構造と生理機能(1) 2 呼吸器系器官の構造と生理機能(2) 3 循環器系器官の構造と生理機能(1) 4 循環器系器官の構造と生理機能(2) 5 消化器系器官の構造と生理機能(1) 6 消化器系器官の構造と生理機能(2) 7 泌尿・生殖器系器官の構造と生理機能 8 病理学国家試験対策① 9 内科学国家試験対策①-循環器疾患 10 内科学国家試験対策②-代謝系疾患 11 内科学国家試験対策③-呼吸器疾患 12 内科学国家試験対策④-消化器疾患 13 内科学国家試験対策⑤-内分泌疾患 14 病理学・内科学国家試験対策 15 まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	[レポート提出]各回の授業課題を各自で予習してから授業を受ける。		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学①解剖学②生理学(医学書院) Dr.レイの病理学講義(金芳堂)		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器・PC		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	医学専門用語が多く出てきます。あらかじめ専門用語や予習課題内容を予習してから授業に臨み、理解度を高めるようにしてください。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法総合演習Ⅱ-2	担当教官名	山脇 昌
対象学生	2 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	わかりやすく、丁寧に、ゆっくりと		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 2年次に学習した基礎知識を応用できるよう実践を通して学びます。</p> <p>到達目標 ①臓器別の主な病態について正常機能を含めて説明できる。 ②国試過去問レベルの問題演習で正解率7割以上を達成する。</p>		
実務者経験	東京大学医学部で15年間、講師、准教授として教育・研究・実習、チューター制に携わり、満期退職後は現在まで京都医健専門学校で8年間 解剖整理学、一般臨床医学、国試対策授業に従事して授業、教育経験が豊富である。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 診察(問診、視診、触診、打診など) 3 診察(バイタル、症候論など) 4 検査(血圧、心電図など) 5 検査(血液、エクス線、CT、MRIなど) 6 心不全(高血圧症、心筋梗塞・狭心症、不整脈など) 7 心不全(高血圧症、心筋梗塞・狭心症、不整脈など) 8 ショック・救命救急 9 呼吸不全 10 肝不全 11 腎不全 12 代謝疾患(糖尿病、痛風など) 13 内分泌疾患 14 脳卒中 15 まとめ 試験直前問題演習 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	復習中心に学習する。		
教科書・教材等	独自作成資料を中心に行う。参考書:医学書院「内科学」		
授業の形式 教育機器の活用	演習 原則対面パワポ授業 状況によりMSチームズを使用した遠隔授業		
成績評価の方法	原則対面試験 状況によりMSチームズを用いた課題提出		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	授業の区切りごとに行うおさらい穴埋めを利用して、重要ポイントをしっかり理解すること、演習問題の正解肢の丸暗記をする癖だけはつけないようにすることが大切です。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	日常生活活動 I	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	基本動作 日常生活活動 ADL 身辺動作 ICF FIM		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 日常生活活動の基本概念と構成要素について習得します。</p> <p>到達目標 ①日常生活動作の捉え方と視点を理解する ②基本動作の活動と特徴を捉え作業療法との関係を理解する ③身辺動作の活動と特徴を捉え作業療法との関係を理解する</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 日常生活活動の定義と分類 3 日常生活活動動作と作業療法 4 領域別に考える日常生活活動 5 身辺動作 6 日常生活関連動作 7 日常生活動作の評価について 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業を理解するために、普段の生活から基本動作・身辺動作について考えておく		
教科書・教材等	教科書:クリニカル作業療法シリーズ 日常生活活動の作業療法		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	解剖学・運動学の知識は必要です。授業で学んだことを実習に活かすことができるように、普段の生活から日常生活活動を意識して学んでいきましょう。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	老年期治療学Ⅰ	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	高齢者の機能評価と老年期症候群		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 老年期障害の特徴と評価・治療の流れを実践的に習得する</p> <p>到達目標 ①代表的な老年期症候群について説明する事ができる ②高齢者の全体像を捉え特徴を説明する事ができる ③老年期症候群に対してのアプローチを説明することができる。</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当、また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 老年期作業療法学の概要 2 老年期症候群に対する作業療法① 3 老年期症候群に対する作業療法② 4 認知症に対する作業療法① 5 認知症に対する作業療法② 6 グループ演習 7 グループ発表 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業前に前回の内容を復習・予習をしてください		
教科書・教材等	作業療法評価学(医学書院) 標準理学療法学・作業療法学「老年学」第5版【医学書院】 配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器(パソコン プロジェクター)		
成績評価の方法	レポート課題(30%) 定期試験70%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	高齢者に特徴的な疾患や症状について学び、臨床で必要な評価の視点を学びます。		

令和5年度京都医健専門学校授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	精神障害治療学Ⅰ	担当教官名	銀山 章代
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	精神障害作業療法・評価から治療の流れ・疾患別作業療法		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 教科書に沿って、精神科領域の作業療法の評価・治療の流れを習得します。</p> <p>到達目標 ・精神科領域の作業療法の評価方法を理解できる。 ・精神科領域の疾患別の作業療法の治疗方法を理解できる。 ・症例を通じ、精神科領域の作業療法の流れを具体的に理解できる。</p> <p>実務者経験 精神科病院で約20年勤務。精神科作業療法・精神科デイケア・重度認知症デイケアに携わる。 大学で約20年間作業療法教育に従事。基礎作業学・作業療法概論・集団演習・精神障害評価学・精神障害治療学等担当 現在、生活支援・就労支援施設で週3、5日勤務。非常勤講師として基礎作業学・作業学実習を担当</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 基礎概念(精神科医療) 2 基礎概念(基礎理論) 3 評価の流れと評価手段(情報収集・面接・検査) 4 評価をまとめる(目標設定) 5 治療構造(作業活動・集団・自己の利用) 6 治療・援助の場(精神科作業療法・デイナイトケア・重度認知症デイケア) 7 疾患別の対応(症状に合わせた対応)器質性精神障害 8 統合失調症に対する作業療法 9 気分障害に対する作業療法 10 神経症性障害・身体表現性障害・摂食障害・パーソナリティ障害 11 知的障害・発達障害・てんかん・認知症 12 地域生活支援(訪問看護・ACT・就労支援・関連法規・制度) 13 事例を通じての精神科作業療法の流れの理解(事例1) 14 事例を通じての精神科作業療法の流れの理解(事例2) 15 事例を通じての精神科作業療法の流れの理解(事例3) 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	事前に教科書を読み、わからないところを見つけて、講義に臨むと理解が深まります。		
教科書・教材等	作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学(第3版)		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	小テスト(20%)・定期試験(80%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	分からないことがあれば質問しあい、対話を通じて理解を深めあいましょう		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法評価学Ⅱ-1	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	2年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	作業療法評価 身体障害 基本技術		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 主に身体障害分野で多用する評価法の知識と方法、解釈について実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①正確な評価の方法が説明できる ②評価実施のポイントが説明できる ③評価実施において留意点を理解し説明できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施.</p>		
講義計画・内容	<p>1 総論・関節可動域測定:肩関節 2 関節可動域測定:肩関節 3 関節可動域測定:前腕・手関節 4 関節可動域測定:股関節 5 関節可動域測定:膝関節・足部 6 関節可動域測定:頸部・体幹 7 関節可動域測定:手指 8 総論・徒手筋力検査:肩甲骨周囲筋 9 徒手筋力検査:肩関節周囲筋 10 徒手筋力検査:肩関節周囲筋 11 徒手筋力検査:股関節周囲筋 12 徒手筋力検査:股関節・膝関節周囲筋 13 徒手筋力検査:体幹筋 14 徒手筋力検査:手指 15 まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	グループ間での情報の共有		
教科書・教材等	作業療法評価学・改訂第3版-医学書院・徒手筋力検査		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン プロジェクター ゴニオメーター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	理解するには知識を積み重ねだけでなく、使える知識として臨床で活用出来るようにならねばなりません。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法評価学Ⅱ-2	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	2年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	作業療法評価 身体障害 基本技術		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 主に身体障害分野で多用する評価法の知識と方法、解釈について実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①評価のポイントを理解し評価が実施できる ②留意点を意識しながら評価が実施できる ③無駄が少なく正確な評価が実施できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施.</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 関節可動域測定:肩関節 3 関節可動域測定:前腕・手関節 4 関節可動域測定:股関節 5 関節可動域測定:膝関節・足部 6 関節可動域測定:頸部・体幹 7 関節可動域測定:手指 8 総論・徒手筋力検査:肩甲骨周囲筋 9 徒手筋力検査:肩関節周囲筋 10 徒手筋力検査:肩関節周囲筋 11 徒手筋力検査:股関節周囲筋 12 徒手筋力検査:股関節・膝関節周囲筋 13 徒手筋力検査:体幹筋 14 徒手筋力検査:手指 15 まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	グループ間での情報の共有		
教科書・教材等	作業療法評価学・改訂第3版-医学書院・徒手筋力検査		
授業の形式 教育機器の活用	実技 パソコン プロジェクター ゴニオメーター		
成績評価の方法	パフォーマンス評価(ループリック評価) 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	グループ間での協調学習を中心に進めていくので、自己にて知識の整理はおこなっておきましょう。授業に関しては、実習同様の身なりで臨むようにして下さい。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	作業療法評価学Ⅲ-1	担当教官名	堂岡 悠理・富松 衛
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	認知 ボディーイメージ 遊び 感覚統合 発達評価 高齢者機能評価		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 主に認知・精神・発達障害分野で多用する評価法の知識を習得します。</p> <p>到達目標 ①人間の発達段階について理解することができる。 ②発達障害を理解し治療プログラムを理解することができる。 ③高齢者機能の評価について項目を列挙することができる。 ④各機能の評価について説明することができる。</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 2016年 ひだか病院 2021年 京都医健専門学校 臨床では総合病院で主に急性期を担当.また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた.京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している.</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・乳幼児期の成長 2 学童期の成長 3 感覚統合とは何か 4 遊びの実際 5 遊びの実際 6 症例検討会・制作 7 症例検討会・制作 8 症例検討会・発表・まとめ 9 感覚検査(感覚検査の意義・目的) 10 感覚検査(感覚伝導路・受容器・検査) 11 高齢者機能評価(身体機能検査・筋緊張検査) 12 高齢者機能評価(上肢機能検査) 13 高齢者機能評価(協調性・姿勢反射) 14 高齢者機能評価(摂食・嚥下機能検査) 15 高齢者機能評価(排泄機能検査) まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	事前に教科書や資料を確認し、内容を把握しておいてください		
教科書・教材等	標準作業療法学 作業療法評価学		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	評価法の学習を通して、人物・物的・文化的環境を幅広く捉え、問題点・強みを同時に評価し、治療に結びつけられるようにしましょう。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法評価学Ⅲ-2	担当教官名	富松 衛・堂岡 悠理
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	発達 感覚統合 高齢者機能評価		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 主に認知・精神・発達障害分野で多用する評価法の知識と方法、解釈について実践を通して学びます。</p> <p>到達目標 ①子どもの特性を理解し遊びを通して感覚統合を学ぶことが出来る ②高齢者機能評価の解釈ができ、問題点抽出、プログラム立案に結び付けられる。</p> <p>実務者経験 富松衛:2016年に作業療法士国家資格取得。作業療法士として、病院、就労継続支援B型、生活介護、放課後等デイサービス等の臨床を経験。 公的機関・学校機関と協力し、社会生活への適応を支援する業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 発達障害 3 感覚統合とは 4 遊びの実際 5 症例検討・制作 6 症例検討・制作 7 症例検討・発表 8 症例検討・発表・まとめ 9 感覚検査(表在感覚・深部感覚) 10 感覚検査(表在感覚・深部感覚) 11 高齢者機能評価 (身体機能評価・筋緊張検査) MAS 12 高齢者機能評価 (上肢機能検査) STEF 13 高齢者機能評価(協調性・バランス検査) 14 高齢者機能評価 (摂食・嚥下機能検査) 15 高齢者機能評価(排泄機能検査) まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業当日か翌日中に復習をしましょう		
教科書・教材等	感覚統合の発達と支援 A・ジーン・エアーズ 標準作業療法評価学		
授業の形式 教育機器の活用	実技 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	ループリック評価での採点 実技試験(50%) レポート評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	1年生で学んだ人間発達学の知識を使って、子どもたちの支援の実際を学んでいきましょう。		

令和5年度京都医健専門学校授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	身体機能治療学Ⅰ(中枢系)	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	中枢性疾患の障害像 作業療法評価の項目 作業療法		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 中枢神経(脳・脊髄)疾患の特徴、評価、治療の流れなどに要について習得します。</p> <p>到達目標 ①中枢疾患の障害理解と治療手段が説明できる ②中枢疾患に対し適切な評価項目、目的が説明できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 2 脳の構造 3 中枢神経系の構成 4 脳画像 5 脳神経検査 6 リスク管理 7 急性期リハビリテーション(総合評価) 8 急性期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 9 急性期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 10 回復期リハビリテーション(総合評価) 11 回復期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 12 回復期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 13 生活期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 14 生活期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 15 まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	事前に教科書を読み内容を把握		
教科書・教材等	脳卒中リハビリテーション(インターメディア) 標準作業療法学身体機能作業療法学(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	対応する機会の多い疾患です。本講義では脳血管障害の概要、作業療法評価臨床での応用ができるレベルに達する。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	身体機能治療学Ⅱ(運動・内部系)	担当教官名	谷村 浩子
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	身体障害のOT 骨折 腱損傷 热傷 関節リウマチ 変形性関節症		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 運動器(骨・関節・筋肉)や内部疾患(循環器、呼吸器等)疾患の特徴と評価、治療の流れなどの知識を習得します。</p> <p>到達目標 ①脊髄損傷の治療の評価と積瘻の概要を説明できる ②上肢の外傷や拘縮の治療と評価の概要が説明できる。 ③変形性関節症に対するOTの評価や治療について説明できる。</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得 2010年専門作業療法士(手外科) 2009年認定ハンドセラピスト、2023年教育学修士 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで)：整形外科全般、脳血管障害、がん、神経筋疾患など幅広い疾患を経験。 2012年京都医健専門学校入職 2004年第16回日本ハンドセラピイ学会 学術集会会長 2017年 第32回日本RAのリハビリ研究会 学術集会会長 2018年 第6回京都府作業療法学会 学術集会会長 2021年 第9回中部日本ハンドセラピイ研究会学術集会会長</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 身体障害の治療手段:関節可動域訓練 2 身体障害の治療手段:筋力強化訓練、知覚再教育 3 脊髄損傷:概要、損傷型 4 脊髄損傷:高位レベルごとの特徴と治療 5 脊髄損傷:高位レベルごとの特徴と治療 6 脊髄損傷 頸椎症 7 拘縮の評価と治療 8 拘縮の評価と治療 物理療法の概要 9 上肢の骨折の治療 10 上肢の骨折の治療 11 腱損傷に対する治療 12 腱損傷に対する治療 13 肩腱板断裂に対する治療 14 热傷に対する治療 15 まとめ、国家試験問題演習 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	運動学Ⅰ 解剖学 特に筋の作用 支配神経についての復習をしておくこと		
教科書・教材等	身体障害作業療法学 その他授業プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義 教科書 講義資料		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	外傷に対する身体障害は臨床で遭遇すること多く、国家試験問題に出されることが多い分野です。OTとしての基本的な知識になりますので十分な予習と復習を行って下さい。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	チーム医療論Ⅱ	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	2年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	チームアプローチ 医療 福祉 連携		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 他職種との関りを通してチーム医療と作業療法士の役割について習得します。</p> <p>到達目標 ①作業療法士が医療・福祉の現場で連携する、理学療法士・言語聴覚士・社会福祉士の業務への理解を深めていきます。 ②模擬カンファレンスを通じて他職種連携の意味を説明できる。</p> <p>実務者経験 2016年 京都医健専門学校卒業・作業療法士免許取得 2016年 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。 また、地域包括ケア病棟での作業療法を経験し、 退院支援にも携わってきた。 2021年 京都医健専門学校専任教員。 京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員所属。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 各専門職の概要 2 リハビリテーションチームの概要 リハビリ専門職の違い 3 グループディスカッション 症例検討①(各職種の役割理解) 4 グループディスカッション 症例検討① (各職種の役割理解・発表) 5 グループディスカッション 領域別各 職種の役割理解① 6 グループディスカッション 領域別 職種の役割理解② 7 グループディスカッション 発表 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	関連職種の役割について理解できるよう、予習・復習をしておいてください。		
教科書・教材等	講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器(パソコン プロジェクター)		
成績評価の方法	レポート課題(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士と他職種と役割を理解し意見をよく聞き理解すること、同目的のリハビリテーション・ゴールへ作業療法士としてどのように協力できるか考えていきましょう。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	職業関連	担当教官名	辻井 智
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	就労、雇用、フォローアップ		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 職業復帰に関する制度と流れなどについて習得します</p> <p>到達目標 ①職業関連活動のかかわりを理解し、説明できる ②作業療法士が知っておくべき制度や技術を学び、説明できる ③各疾患の特徴に合わせた具体的な支援を理解し、説明できる</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つてきました。 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 職業と文化 2 日本の産業 3 就労支援の理論 4 就労支援の作業療法の役割 5 関連職種・機関との連携 6 障害別就労支援①(身体障害) 7 障害別就労支援②(精神障害) 8 障害別就労支援③(高次脳機能障害)、まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	資料の復習		
教科書・教材等	職業関連活動		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン、プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士の活躍の場は広がっています。職業復帰や社会参加の形は、個人により異なる目標となります。リハビリテーション・ゴールともかかわる内容なので興味を持ってほしい。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	内科学	担当教官名	越智 雅晴
対象学生	2 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	内科的疾患 病態 症状 診断 治療 合併症		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な内科疾患の機序・評価と治療などを学ぶ。毎回、生理学・解剖学・病理学などの基礎知識を復習しながら疾患の理解を深める。</p> <p>到達目標 ①代表的な内科疾患の病態、症状、合併症、治療について説明できる。 ②内科的な基礎疾患有する患者の作業療法を行うに当たって注意すべき点を把握し対応できる。</p> <p>実務者経験 平成2年度から現在まで、京都市児童福祉センター医師として、障害を持った児童や成人の診療とりハビリテーションに携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、内科学総論:診断治療のすすめ方(例:高血圧症) 2 循環器疾患①:心臓のポンプ機能と心不全 3 循環器疾患②:心臓の電気生理と心電図、不整脈 4 循環器疾患③:虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)、心筋症 5 循環器疾患④:心音、心臓弁膜症、血管疾患など 6 呼吸器疾患①:呼吸機能と換気障害(閉塞性、拘束性) 7 呼吸器疾患②:肺炎、呼吸音、呼吸不全、換気異常と酸塩基平衡 8 消化器疾患①:消化管疾患(胃腸疾患) 9 消化器疾患②:肝臓・胆道系疾患、脾臓疾患 10 血液疾患:貧血症、白血病、悪性リンパ腫、血液凝固異常など 11 代謝疾患:糖尿病、高脂血症など 12 内分泌疾患:下垂体、甲状腺、副腎疾患など 13 腎泌尿器疾患:腎炎、腎不全など 14 アレルギー疾患、膠原病、免疫不全 15 感染症、まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	解剖学、生理学、病理学など基礎医学の復習		
教科書・教材等	標準PT・OT内科学、教官作成資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 教官作成スライドなど		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	臨床内科学の学習は、解剖学・生理学・病理学の応用です。各疾患の病態を把握するためには、これらの基礎医学の知識が必須です。講義では常に基礎的な事項を振り返りながら話を進めています。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	小児科学	担当教官名	越智 雅晴
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	成長発達 小児保健 健全育成 先天異常 小児神経筋疾患 発達障害		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な小児疾患の機序・評価と治療などを学ぶ。小児の健常な成長・発達および成長・発達を阻害する疾患の成り立ちと病像について学習し、加えて小児保健の重要性についても学習する。</p> <p>到達目標 ①小児の成長・発達・生理について基本的なことを説明できる ②発達の障害をきたす原因について理解し説明できる ③作業療法を行うに当たって、患児の症状・特性を把握し適切に対応できる。</p> <p>実務者経験 平成2年から現在まで、京都市児童福祉センターの医師として、障害を持った児童の診療とりハビリテーションに携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、小児の成長発達、小児保健、小児科診療の特異性 2 子どもの発達と障害：健常児の姿勢運動発達、脳性麻痺、知的障害 3 新生児・未熟児疾患、周産期の異常 4 先天異常：染色体異常症、先天奇形症候群、先天性代謝異常症 5 小児の神経筋疾患：奇形、神経皮膚症候群、脳腫瘍、筋ジストロフィー症など 6 小児の痙攣性疾患：てんかん、熱性けいれん 7 発達障害：自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害 8 小児の特有の一般疾患、まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	人間発達学、解剖学、生理学などの復習		
教科書・教材等	標準PT・OT小児科学、教官作成資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 教官作成スライドなど		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	小児分野の作業療法を目指している人は、小児科学を学ぶことは必須です。子どもの成長・発達や子どもの病気についての知識を習得することは、将来色々な場面で役に立つと思います。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	整形外科学	担当教官名	北條 達也
対象学生	2年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	外傷 変性疾患 スポーツ障害 リハビリテーション		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な整形外科疾患の機序・評価と治療などを習得します。</p> <p>到達目標 ①OTとして求められる知識や技能を説明できる。 ②整形外科疾患の概要を理解し説明する高知尾ができる。 ③対象者に適切なOTが実施できるよう指揮を身に着け、説明することができる。</p> <p>実務者経験 1988年に医師免許を取得。その後現在に至るまで整形外科およびリハビリテーションの診療を継続して実践している。整形外科学・リハビリテーション医学・リウマチの専門医でもあり、2002年～2005年は回復期病院で、2005年～2008年は大学病院の医師(講師)として整形外科とリハビリテーション医学の診療を行っていた。現在は同志社大学スポーツ健康科学部で臨床系科目の講義(リハビリテーション医学・スポーツ医学・生活習慣病概論他)の講義を担当している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 整形外科概論 2 外傷学総論 3 関節疾患① 4 関節疾患② 5 代謝性骨疾患 6 骨・軟部腫瘍 7 頸椎疾患 8 胸・腰椎疾患 9 末梢神経障害 絞扼神経障害他 10 肩・肘関節 11 前腕・手関節・手 12 骨盤・股関節 13 膝関節 14 足関節 15 スポーツ障害 まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	解剖学で学ぶ運動器の内容は理解しておく。特に主要な筋の起始・停止・神経支配は復習しておく。定期的に小テストを行う。直接成績には加味しないが、定期試験につながる内容であるので、小テスト前後は特に予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準整形外科学第14版(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚教材		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	臨床医学系の講義課目は記憶しないといけない事項が多いです。根気強く学習してください。特に整形外科学は作業療法の学習にとって重要な分野です。知らない知識はありません。日々の努力を期待しています。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	神経内科学	担当教官名	山脇 昌
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	代表的な神経内科疾患		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な神経内科疾患の機序・評価と治療などを習得します。</p> <p>到達目標 ①神経系の解剖生理学の復習すると同時に、正常な機能の破綻がなぜ脳卒中、高次脳機能障害、認知症、神経筋変性疾患の症状として出現するのかを説明でき、診断、治療の概略を説明できる。</p> <p>実務者経験 東京大学医学部で15年間、講師、准教授として教育・研究・実習、チューター制に携わり、満期退職後は現在まで京都医健専門学校で8年間 解剖学、一般臨床医学、国試対策授業に従事して授業、教育経験が豊富である。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 中枢神経(解剖、機能局在、脳動脈、伝導路など) 3 中枢神経(解剖、機能局在、脳動脈、伝導路など) 4 末梢神経(運動神経、感覚神経、自律神経など) 5 特殊感覚(視覚) 6 特殊感覚(聴覚) 7 脳卒中(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血) 8 脳卒中(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血) 9 脳卒中(脳梗塞、くも膜下出血) 10 高次脳機能障害(優位半球障害、劣位半球障害) 11 認知症(アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症) 12 神経筋変性疾患(パーキンソン病、多発性硬化症) 13 神経筋変性疾患(筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症) 14 神経筋変性疾患筋(筋ジストロフィー、重症筋無力症) 15 まとめ、試験前問題演習 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	復習中心に学習する。		
教科書・教材等	独自作成資料を中心に行う。参考書: 医学書院「神経内科」		
授業の形式 教育機器の活用	講義 原則対面パワポ授業 状況によりMSチームズを使用した遠隔授業		
成績評価の方法	原則対面試験 状況によりMSチームズを用いた課題提出		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	授業の区切りごとに行うおさらい穴埋めを利用して、重要ポイントをしっかりと理解すること、演習問題の正解肢の丸暗記をする癖だけはつけないようにすることが大切です。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	精神医学	担当教官名	松井 孝至
対象学生	2年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	精神疾患 統合失調症 気分障害 神経症 摂食障害 依存症		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な精神疾患の機序・評価と治療などを習得します。</p> <p>到達目標 ①精神機能と精神機能障害について説明できる。 ②各精神疾患の概要と治療法を説明できる。 ③精神科リハビリテーションの概要について説明できる。</p> <p>実務者経験 医療法人三幸会第二北山病院 作業療法士 松井孝至(精神科OT歴21年) 京都府作業療法士会理事 認知行動療法や認知のゆがみなどの講演多</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 精神医学概要、歴史、精神障害の成因</p> <p>2 精神機能と精神症状①</p> <p>3 精神機能と精神症状②</p> <p>4 精神機能と精神症状③</p> <p>5 統合失調症①</p> <p>6 統合失調症②</p> <p>7 気分障害①</p> <p>8 気分障害②</p> <p>9 神経症①</p> <p>10 神経症②</p> <p>11 摂食障害</p> <p>12 パーソナリティ障害</p> <p>13 認知症</p> <p>14 てんかん</p> <p>15 まとめ アルコール依存症 薬物依存</p> <p>16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	教科書(次回講義内容)に目を通してください。		
教科書・教材等	標準理学療法作業療法 精神医学、医学書院・配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 PC・プロジェクター 等視聴覚機器使用 グループワーク		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	精神科の症状は目に見えにくいものなので、「わかりにくい」と感じている学生も多いのではと思います。しかしどの分野であっても患者さんのしんどさ・生き辛さに寄り添い、共感していくことは一緒です。症状を知ることはもちろん大事ですが、症状以上に『その人を知る』という視点を忘れないでもらいたいです。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	老年期学	担当教官名	辻井 智
対象学生	2年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	老化 加齢		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 老年期に多発する疾患の機序・評価の視点などを習得します。</p> <p>到達目標 ①加齢による生理機能の変化について学び説明できる。 ②老年期に特徴的な疾病や機能低下について説明できる。 ③高齢者の生活環境や活動の特徴を説明できる。 ④終末期について説明する事ができる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つてきました 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・老化と老年病の考え方 2 高齢者へのアプローチ① 3 高齢者へのアプローチ② 4 高齢者に特徴的な症候と疾患① 5 高齢者に特徴的な症候と疾患② 6 高齢者を取り巻く環境① 7 高齢者を取り巻く環境② 8 まとめ・人生の最終段階における医療 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業前に前回の内容を復習をして臨んでください。		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学「老年学」第5版【医学書院】		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士の多くが担当する機会のある高齢者、どのように対応する必要があるのかイメージできるようになってほしい。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	病理学	担当教官名	高橋 玲
対象学生	2 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8 回
授業のキーワード	疾病の原因・疾病の成り立ち・病態		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な疾病の原因、成り立ちおよび臓器・組織での形態学的・機能的变化を学ぶ。</p> <p>到達目標 ①疾病における原因や病態メカニズムを理解し、病態の制御と治療に応用できる基礎的知識を学ぶ。 ②作業療法分野に関する疾患の全体像を深く理解する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>実務者経験 同志社女子大学薬学部教授、京都大学医学部非常勤講師、愛媛大学医学部非常勤講師：機能形態学・病理学の授業担当歴30年、病理専門医、細胞診専門医、臨床検査専門医として医療に従事している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・病理学総論(1)創傷治癒 2 病理学総論(2)炎症 3 病理学総論(3)感染・免疫 4 病理学総論(4)腫瘍 5 病理学各論(1)循環器系・血液系の疾患 6 病理学各論(2)呼吸器系の疾患 7 病理学各論(3)消化器系の疾患 8 病理学各論(4)泌尿生殖器系の疾患・まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	[レポート提出]各回の授業課題を各自で予習してから授業を受ける。		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学①解剖学②生理学(医学書院) Dr.レイの病理学講義(金芳堂)		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器・PC		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	医学専門用語が多く出でます。あらかじめ専門用語や予習課題内容を予習してから授業に臨み、理解度を高めるようにしてください。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	薬理学	担当教官名	北野 富美雄
対象学生	2年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	医薬品 代謝系疾患 循環器疾患 呼吸器疾患 脳血管疾患 薬物依存 薬物療法 薬の薬理 副作用		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 一般な薬剤の役割、効用や副作用などについて習得します。</p> <p>到達目標 ①薬物療法について説明できる。 ②チームワークの一員としてチーム医療に参画できる。</p> <p>実務者経験 25年間、八尾徳洲会総合病院で臨床薬剤師として勤務。臨床薬剤師(入院患者対象、内科、外科、脳神経外科、整形外科病棟)に従事。院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬情報、副作用の報告、情報提供。他職種(医師、看護師、視能訓練士、言語聴覚士、作業療法士)研修会での薬品情報(副作用、禁忌、注意点、新薬等の)提供。</p>		
講義計画・内容	<p>1 薬剤について 医薬品とは 薬剤代謝 吸収 排泄 体内変動 副作用</p> <p>2 代謝系疾患Ⅰ-糖尿病 治療薬 インスリン製剤 経口糖尿病薬 SU尿素系 インクレチン メタボリックシンドローム</p> <p>3 代謝系疾患Ⅱ-脂質異常症治療薬 フィブロート系 スタチン系 痛風治療薬 コルヒチン NSAIDs アロブリドール プロベネシド</p> <p>4 循環器疾患Ⅰ-狭心症 心筋梗塞 ニトログリセリン Ca拮抗剤 β遮断剤</p> <p>5 循環器疾患Ⅱ-心不全 高血圧 降圧剤 強心剤 ACE阻害薬 利尿薬 ARB</p> <p>6 呼吸器疾患-閉塞性換気障害 気管支喘息 COPD 気管支拡張薬 ステロイド剤</p> <p>7 脳血管疾患-脳梗塞 血栓溶解剤 t-PA アルテプラーゼ モンテプラーゼ</p> <p>8 薬物依存症-麻薬中毒 覚醒剤中毒 抗不安剤中毒 アルコール中毒</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	毎回 予習・復習が必要となる。		
教科書・教材等	薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進 医学書院 第13版		
授業の形式 教育機器の活用	講義 特に機器の使用はない		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	解らないことがあれば、解るまできいてほしい。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	臨床薬学	担当教官名	北野 富美雄
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	統合失調症 気分障害 パーキンソン病 リウマチ 癲癇 認知症 悪性腫瘍 痙縮 筋無力症 薬物療法		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 臨床で多用する薬剤の効用と副作用などについて学びます。</p> <p>到達目標 ①薬物療法について説明できる。 ②チームワークの一員としてチーム医療に参画できる。</p> <p>実務者経験 25年間、八尾徳洲会総合病院で臨床薬剤師として勤務 臨床薬剤師(入院患者対象 内科 外科 脳神経外科 整形外科 病棟)に従事。院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬状況、副作用 の報告 情報提供。他職種(医師 看護師 視能訓練士 言語聴覚士 作業療法士)研修会での薬品情報提供(新薬 副作用 禁忌 注意点 等) 実務経験あり。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション、統合失調症、抗精神病薬、定型薬、ハロペリドール、非定型薬</p> <p>2 気分障害 抗うつ薬 第1世代 第2世代 第3世代 SSRI 第4世代 SNRI</p> <p>3 パーキンソン病 パーキンソン病治療薬(レボドバ アマンタジン プロモクリプチン)</p> <p>4 関節リウマチ 抗リウマチ剤(メトレキサート)生物学的製剤(インフリキシマブ)</p> <p>5 認知症 アルツハイマー治療薬(ドネペジル リバストグミン ガランタミン)</p> <p>6 てんかん 抗てんかん剤 フェニトイン カルバマゼピン フェノバルビタール バルプロ酸</p> <p>7 悪性腫瘍 各種 抗癌剤 薬理作用 副作用 注意点</p> <p>8 重症筋無力症 抗コリンエステラーゼ 脳卒中後の筋痙攣治療 ポツリヌストキシン まとめ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	毎回 予習、復習が必要となる		
教科書・教材等	薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進 医学書院 第13版		
授業の形式 教育機器の活用	講義 特に機器の使用はない		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	解らないところがあれば、解るまできいてほしい。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	画像診断学	担当教官名	岩井有香
対象学生	2年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	脳血管疾患 骨関節疾患 内部疾患		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 画像の読影は作業療法士が適切な治療を行うために必要となる予後予測を立てる際に欠かせない知識です。脳血管障害、骨関節疾患はもちろん、循環器・呼吸器疾患の画像の診方について学びます。</p> <p>到達目標 ①脳のCT、MRI画像を読影でき、予後予測にいかすことができる。 ②骨折や関節症などのレントゲン画像やCTの読影ができ、予後予測・治療にいかすことができる。 ③循環器・呼吸器のレントゲン画像やMRIの読影し、病状の理解ができる。</p> <p>実務者経験【実務経験】 岩井 有香: 2007年作業療法士国家資格取得。リハビリテーション病院で3年間回復期の作業療法を経験後、大学病院で急性期と術後の外来作業療法に携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 脳画像の診方(正常) 2 脳画像の診方(脳梗塞、脳出血) 3 脳画像の診方(正常圧水頭症、硬膜外血腫) 4 運動器の画像の診方 5 骨折の画像(レントゲン、CT) 6 関節症、RAの画像の診方 7 循環器・呼吸器のX線画像、腹部のMRI画像 8 総まとめ、国家試験問題演習 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	骨・脳・臓器の基礎知識と画像の予習、復習		
教科書・教材等	配布資料、参考書		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	今後の臨床業務で、対象者に根拠に基づいた作業療法を提供するために、画像を読影し予後予測を立てられるようになります。		

令和 5 年度京都医健専門学校授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	救急医学	担当教官名	神納光一郎/金村 諭司
対象学生	2 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8 回
授業のキーワード	チームアプローチ 医療 福祉 連携		
講義計画・内容	<p>授業の概要 作業療法士の活躍範囲が拡大しており、緊急を要する病態や疾患・外傷への適切な対応が必要とされています。本科目では前述の状態の基礎的な知識を学び、心肺蘇生・応急処置について学びます。</p> <p>到達目標 ①救急医療体制について説明できる ②救急病態生理(生体の機能的変化)について説明できる ③救急症候(自覚症状と他覚的所見)について説明できる ④心肺蘇生・応急処置の方法を説明できる</p> <p>実務者経験 座学担当: 神納 光一郎 医師、救急医療に28年間従事する 実技担当: 金村 諭司 32年の消防経験(H7.救急救命士)</p>		
	<p>1 オリエンテーション、救急医学を学ぶ意義 呼吸系(呼吸不全、低酸素症、呼吸困難)</p> <p>2 救急医学の基礎知識 循環系(ショック、循環不全、不整脈)</p> <p>3 救急医学の基礎知識 神経系(意識障害、麻痺、痙攣、頭痛)</p> <p>4 救急医学の基礎知識 外因性疾患(外傷、異物、中毒、環境障害)</p> <p>5 救急医療体制について</p> <p>6 応急処置・心肺蘇生の方法(演習) 心肺蘇生</p> <p>7 応急処置・心肺蘇生の方法(演習) 応急処置</p> <p>8 応急処置・心肺蘇生の方法(演習) 実技・まとめ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	次回予定を伝えるので、その職種についてあらかじめ定義を調べておくこと。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験 50% 実技試験 50%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	自分の目の前の患者に急変が起こった時に、できるかぎり適切な処置ができるようになることを目指してください。緊急時に実際に行動できることが必要なので、実技を行います。指導に従って「やってみる」→「できる」ことを実践しましょう。		

令和5年度京都医健専門学校授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	運動学Ⅱ	担当教官名	谷村 浩子・南條 千人
対象学生	2年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	肩複合体 手関節 母指・手指の筋と運動 顔面・頭部の筋と運動 股・膝関節の筋と運動		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 主に上肢・体幹の運動に関する器官と仕組みについて習得します。</p> <p>到達目標 ①上肢と体幹の運動について説明することができる。 ②運動に必要な筋の働きや支配神経について説明できる。 ③股関節・膝関節の運動について説明することができる。 ④顔面と頭部の運動について説明することができる。</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010 認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 臨床現場では整形外科疾患、脳外科、神経内科、癌など多岐にわたる症例の診療を経験。2012年より現職。 2004年 第16回日本ハンドセラピィ学会 学術集会会長 2017年 第32回日本RAのリハビリ研究会 学術集会会長 2018年 第6回京都府作業療法学会 学術集会会長 2021年 第9回中部日本ハンドセラピィ研究会学術集会会長</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 肩複合体の運動学 肩関節の構造と機能 2 肩複合体の運動学 肩関節の構造と機能 関節運動 3 肩複合体の運動学 関与する筋 4 肩複合体の運動学 関与する筋 5 手関節の構造と機能 6 手関節の構造と機能 関与する筋 7 手指の構造と機能 関与する筋 8 手指の伸展機構 9 母指の構造と機能 10 顔面と頭部の筋 11 股関節の運動学 (南條) 12 膝関節の運動学 (南條) 13 膝関節の運動学 (南條) 14 膝関節の運動学 (南條) 15 総まとめ 国家試験演習 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	解剖学を十分復習をしておくようにして下さい。		
教科書・教材等	教科書 講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 骨格模型 視聴覚教材等		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	解剖学を十分復習して下さい。日々の予習・復習を行い理解をするようにして下さい。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野		
授業科目名	研究法Ⅰ	担当教官名	谷村 浩子		
対象学生	2年	履修学期	後期		
必修・選択の別	必修	授業回数	8回		
授業のキーワード	作業療法研究 倫理規定と手続き 献力ード				
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法に必要な研究の基礎を習得します</p> <p>到達目標 ①作業療法士が研究する意義を説明できる ②作業療法研究における倫理規定を説明できる ③作業療法に関する文献を理解し、まとめることができる</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 学会長の経験も豊富である。作業療法士協会の事例登録制度A審査員、学会の演題審査に長年携わる。</p>				
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 作業療法研究の現状と必要性</p> <p>2 レビューまとめ 小テスト</p> <p>3 論文の構成と研究の種類 レビューまとめ</p> <p>4 論文の構成と研究の種類 レビューまとめ 小テスト</p> <p>5 統計の基礎 レビューまとめ 小テスト</p> <p>6 統計の基礎 レビューまとめ 小テスト</p> <p>7 文献検索 レビューまとめ 小テスト</p> <p>8 レビューまとめ 総括まとめ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>				
準備学習	特に必要ありません。授業中にレビューまとめを終了するよう心掛けてください。				
教科書・教材等	文献検索、配布資料				
授業の形式 教育機器の活用	講義 プロジェクター・スライド				
成績評価の方法	小テスト(30%)、定期試験(70%)				
担当教官から (履修にあたっての留意点)	授業中に論文を読み、まとめる、自分で文献を検索するなど自分で思考して行動する形式です。結果はすべて提出となります。				

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	その他
授業科目名	キャリア教育演習Ⅲ	担当教官名	谷村 浩子・岩井 有香
対象学生	3年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	自己分析 課題解決能力 計画と実行		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 集団協議や面接を繰り返しながら職業人としての基礎を習得します。</p> <p>到達目標 ①自分を理解し成長していく力を身につける ②課題を発見して解決する力を身につける ③計画を立て実行していく力を身につける</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学薬科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 大阪医科大学病院においては臨床実習指導に25年間携わる。整形外科、脳外科、神経内科等多岐にわたる疾患に対するOTを経験。 日本ハンドセラピィ学会、日本RAリハビリ学会、中部日本ハンドセラピィ研究会、京都府作業療法学会の学会長を務める。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 キャリア形成とは 3 臨地実習の基本的な流れ 4 安全管理、守秘義務・個人情報保護・情報管理 5 実践に即した記録報告 理系の人の文章の書き方 6 倫理とハラスマント、コミュニケーションスキル 7 クリニカルリーズニング 8 作業療法面接の必要性と理解 9 動作・作業分析と事例 10 卒後のキャリア形成を描いてみよう: 日本作業療法士協会について 11 卒後のキャリア形成を描いてみよう: 生涯学習の行い方 12 協同学習① 13 協同学習② 14 協同学習③ 15 まとめ 16 自己振り返り 		
準備学習	グループ作成		
教科書・教材等	OT臨床臨地実習ルートマップ、他		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚教材使用		
成績評価の方法	レポート(自己振り返り) 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士になるための今から2年間の流れを自己認し、主体的な取り組み方や対話による知識の構成など、実習や国家試験に向けて始動しましょう。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床実習Ⅲ(見学実習)	担当教官名	谷村浩子・学科専任教員
対象学生	3年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	80時間
授業のキーワード	作業療法治療の目的 客観的能力試験 実習報告		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 臨床実習指導者の指導・管理のもと、対象者の面接や評価を実施します。また、リハに携わるスタッフの対象社に対する接し方や評価の目的や項目の選択方法を学びます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①職業人としての常識的態度を身につける ②責任ある行動を身につけ、実践することができる ③実習で体験・見学下作業療法士の職務内容を説明できる ④実習施設における作業療法部門の位置づけや、実施内容を説明することができる <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 大阪医科大学病院においては臨床自習指導に25年間携わる。整形外科、脳外科、神経内科等多岐にわたる疾患に対するOTを経験。 日本ハンドセラピィ学会、日本RAリハビリ学会、中部日本ハンドセラピィ研究会、京都府作業療法学会の学会長を務める。</p>		
講義計画・内容	<p>【実習前】</p> <p>実習オリエンテーション・客観的能力試験</p> <p>【臨床実習】</p> <p>作業療法士の実習施設における役割と対象者に対する治療の目的を理解できる</p> <p>臨床推論を展開できる</p> <p>【実習後】</p> <p>実習報告会・客観的能力試験</p>		
準備学習	学習した知識・技術の復習		
教科書・教材等	所有している教科書・資料等		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器(レポート作成・報告会等)		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	主体的に行動に移すこと、基本的な学生の身なり、立ち振る舞いに関する常に意識行動する。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床実習IV(評価実習)	担当教官名	谷村浩子・学科専任教員
対象学生	3年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	200時間
授業のキーワード	作業療法評価 客観的能力試験 実習報告		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 臨床実習指導者の管理の下で、作業療法の評価計画を立案し、実際の評価結果をまとめ、治療計画の立案までを体験しながら習得します。また、地域包括ケアシステムの強化に資する高度医療人材の育成のために、臨床実習指導者の管理の下で、医療・地域分野など様々な作業療法現場で実際の作業療法を理解します。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①作業療法評価計画を立てることができる ②対象者に必要な評価手段を選択できる ③評価結果を整理し全体像を把握することができる ④域包括ケアシステムの概要を説明できる <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 大阪医科大学病院においては臨床自習指導に25年間携わる。整形外科、脳外科、神経内科等多岐にわたる疾患に対するOTを経験。 日本ハンドセラピィ学会、日本RAリハビリ学会、中部日本ハンドセラピィ研究会、京都府作業療法学会の学会長を務める。</p>		
講義計画・内容	<p>【実習前】</p> <p>実習オリエンテーション・客観的能力試験</p> <p>【臨床実習】</p> <p>対象者の評価結果を解釈しプログラム立案を実施</p> <p>【実習後】</p> <p>実習報告会・客観的能力試験</p>		
準備学習	代表的な疾患に関する基本的な作業療法評価に対する知識・技能の習得をお行う		
教科書・教材等	所有している教科書・資料等		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器(レポート作成・報告会等)		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	主体的に行動に移すこと、基本的な学生の身なり、立ち振る舞いに関しても常に意識行動する。常に疑問を持ち、その解決方法に対する思考が展開できるようにすること		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	地域作業療法学Ⅲ	担当教官名	堂岡 悠理・富松 衛
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	地域包括ケアシステム 生活行為 MTDLP 就労		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 地域リハビリテーションの作業療法士の関りについて実践的に習得します</p> <p>到達目標 ①生活行為向上マネジメントの使用方法を理解し、対象者を「生活する人」として捉えることができる ②症例検討を実践し、臨床思考過程を理解する ③地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を理解する</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床では、総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し、退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 就労支援の評価 3 インテーク面接の流れと実践 4 アセスメントの流れと実践 5 ニーズ整理表の作成 6 サービス等利用計画書の作成 7 本人向けサービス等利用計画書の制作 8 まとめ(就労) 9 生活行為向上マネジメント(MTDLPとは プロセス インテーク) 10 生活行為向上マネジメント(生活行為アセスメント演習シート作成) 11 生活行為向上マネジメント(生活行為課題分析シート作成) 12 生活行為向上マネジメント(生活行為向上プラン演習シート作成) 13 生活行為向上マネジメント(生活行為申し送り表 症例検討課題提示) 14 生活行為向上マネジメント(症例検討・発表) 15 生活行為向上マネジメント(症例検討・発表) まとめ 16 試験解説(レポート課題) 		
準備学習	提供した事例に対する具体的な評価・介入計画について自己学習する。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器 アクティブラーニング		
成績評価の方法	レポート課題(ループリック評価)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	症例を通じて就労支援や地域包括ケアシステムについて学修し、地域における作業療法実践について学んでいきましょう。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野																																																
授業科目名	作業療法総合演習Ⅲ-1	担当教官名	谷村 浩子・岩井 有香																																																
対象学生	3年	履修学期	通年																																																
必修・選択の別	必修	授業回数	30回																																																
授業のキーワード	臨床思考過程 教育用電子カルテ 客観的臨床能力試験																																																		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 3年次に学習した基本の手技を応用できるよう実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①評価から治療までの流れを理解し説明できる ②作業療法の実践を通じ対象者理解のための臨床推論を展開できる ③カルテの見方や他部門情報の役立て方を実践し説明できる</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 大阪医科大学病院においては臨床自習指導に25年間携わる。整形外科、脳外科、神経内科等多岐にわたる疾患に対するOTを経験。 日本ハンドセラピィ学会、日本RAリハビリ学会、中部日本ハンドセラピィ研究会、京都府作業療法学会の学会長を務める。</p>																																																		
講義計画・内容	<table> <tbody> <tr><td>1 OSCEオリエンテーション</td><td>17</td><td>作業療法の実践</td></tr> <tr><td>2 OSCE 標準予防策・リスク管理</td><td>18</td><td>作業療法の実践</td></tr> <tr><td>3 OSCE コミュニケーション技法</td><td>19</td><td>作業療法の実践</td></tr> <tr><td>4 OSCE 高次脳機能障害の推測</td><td>20</td><td>作業療法の実践</td></tr> <tr><td>5 OSCE 車椅子の駆動介助</td><td>21</td><td>作業療法の実践</td></tr> <tr><td>6 OSCE 移乗介助</td><td>22</td><td>作業療法の実践</td></tr> <tr><td>7 OSCE 関節可動域測定</td><td>23</td><td>作業療法の実践</td></tr> <tr><td>8 OSCE 筋力測定</td><td>24</td><td>作業療法の実践 症例検討</td></tr> <tr><td>9 OSCE 感覚検査</td><td>25</td><td>作業療法の実践 症例検討</td></tr> <tr><td>10 OSCE 反射検査</td><td>26</td><td>作業療法の実践 症例検討</td></tr> <tr><td>11 OSCE 脳卒中の麻痺側運動の評価</td><td>27</td><td>作業療法の実践 症例検討</td></tr> <tr><td>12 OSCE 脳卒中の麻痺側運動の評価</td><td>28</td><td>作業療法の実践 症例検討発表</td></tr> <tr><td>13 OSCE 運動失調検査</td><td>29</td><td>作業療法の実践 症例検討発表</td></tr> <tr><td>14 OSCE 立位バランス</td><td>30</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>15 作業療法の実践</td><td>31</td><td>定期試験・試験解説</td></tr> <tr><td>16 作業療法の実践</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			1 OSCEオリエンテーション	17	作業療法の実践	2 OSCE 標準予防策・リスク管理	18	作業療法の実践	3 OSCE コミュニケーション技法	19	作業療法の実践	4 OSCE 高次脳機能障害の推測	20	作業療法の実践	5 OSCE 車椅子の駆動介助	21	作業療法の実践	6 OSCE 移乗介助	22	作業療法の実践	7 OSCE 関節可動域測定	23	作業療法の実践	8 OSCE 筋力測定	24	作業療法の実践 症例検討	9 OSCE 感覚検査	25	作業療法の実践 症例検討	10 OSCE 反射検査	26	作業療法の実践 症例検討	11 OSCE 脳卒中の麻痺側運動の評価	27	作業療法の実践 症例検討	12 OSCE 脳卒中の麻痺側運動の評価	28	作業療法の実践 症例検討発表	13 OSCE 運動失調検査	29	作業療法の実践 症例検討発表	14 OSCE 立位バランス	30	まとめ	15 作業療法の実践	31	定期試験・試験解説	16 作業療法の実践		
1 OSCEオリエンテーション	17	作業療法の実践																																																	
2 OSCE 標準予防策・リスク管理	18	作業療法の実践																																																	
3 OSCE コミュニケーション技法	19	作業療法の実践																																																	
4 OSCE 高次脳機能障害の推測	20	作業療法の実践																																																	
5 OSCE 車椅子の駆動介助	21	作業療法の実践																																																	
6 OSCE 移乗介助	22	作業療法の実践																																																	
7 OSCE 関節可動域測定	23	作業療法の実践																																																	
8 OSCE 筋力測定	24	作業療法の実践 症例検討																																																	
9 OSCE 感覚検査	25	作業療法の実践 症例検討																																																	
10 OSCE 反射検査	26	作業療法の実践 症例検討																																																	
11 OSCE 脳卒中の麻痺側運動の評価	27	作業療法の実践 症例検討																																																	
12 OSCE 脳卒中の麻痺側運動の評価	28	作業療法の実践 症例検討発表																																																	
13 OSCE 運動失調検査	29	作業療法の実践 症例検討発表																																																	
14 OSCE 立位バランス	30	まとめ																																																	
15 作業療法の実践	31	定期試験・試験解説																																																	
16 作業療法の実践																																																			
準備学習	授業準備は開始前までにグループで確認を実施																																																		
教科書・教材等	臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・測定技術編。(第2版 補正版)																																																		
授業の形式 教育機器の活用	演習 教育用電子カルテ・視聴覚教材																																																		
成績評価の方法	定期試験(OCSE:50% 症例検討発表:50%)																																																		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	評価実習に向けて、適切な態度や言葉遣い、正確な技術を習得できるようにしっかりと繰り返し練習などを行って下さい。																																																		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法総合演習Ⅲ-2	担当教官名	渡邊 弘樹
対象学生	3 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	人体の形態構造 細胞 組織 器官の機能 総合的知識整理		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 3年次に学習した基礎知識を応用できるよう実践を通して学びます。</p> <p>到達目標 ①上皮組織、結合組織、軟骨、骨組織、筋組織および神経組織について構造と機能を説明できる ②発生の受精、胚葉の形成、胚子期、胎児期について説明できる ③人体各器官および顔面の発生について概説できる ④基礎医学知識の定着再確認と総合的知識の整理ができる、これを問題解決に応用できる</p> <p>実務者経験 前解剖学大学教授、医学博士(岡山大学)、歯科医師</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・細胞①(形態的特徴と機能) 2 細胞②(細胞機能と病態) 3 上皮・結合組織 4 血管(動脈・静脈・毛細血管)と血液(血球と血漿) 5 筋組織(顔面手足の筋肉)と軟骨 6 骨組織(骨の細胞と骨の形態、骨の種類と骨の発生) 7 復習①(細胞～骨: 到達目標に達するためのチェックポイント) 8 前半まとめ 解剖生理学的知識と病態知識の融合確認 9 消化器系(食道、胃、小腸、大腸、肝臓、脾臓) 10 内分泌系(脾臓、副腎、甲状腺、下垂体) 11 呼吸器系(鼻腔、喉頭、気管、肺) 12 神経系(神経組織、中枢、末梢神経) 13 運動生理 14 発生学(発生、顔面と臓器発生) 15 復習②とまとめ(消化器～発生までの形態機能と病態知識の融合) 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	問題チェック形式のプリント学習		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 医学書院 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学 医学書院 配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	中間試験+定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	限られた講義時間ですべての必要項目を学ぶため、1講義あたりの進度が速い。よって、講義時に配布される穴埋め講義ノートプリントを利用した講義終了後の復習が、必要である。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	日常生活活動学II-1	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	日常生活活動評価 疾患別動作 動作観察		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 臨床で関わる機会の多い日常生活活動を分析する方法を習得します。</p> <p>到達目標 ①ADLの評価と治療の計画および実施のために、疾患を説明することが出来る ②家庭での生活行為の評価計画とプログラム立案出来る</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 日常生活活動の評価 (FIM) 3 脳血管障害のADL① 4 脳血管障害のADL② 5 神経筋疾患のADL 6 運動器障害のADL 7 整形外科疾患のADL 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	演習と合わせて実施するので、演習前に内容を把握しておく		
教科書・教材等	日常生活活動の作業療法 配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 (100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	日常生活と作業療法士の関係性について理解し、対象者の個別性を捉えることができる作業療法士を目指しましょう。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	日常生活活動学Ⅱ-2	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	3年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	疾患別の作業療法 動作分析 生活の改善		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 各種の代表疾患の日常生活活動の分析する方法を実践的に習得します。</p> <p>到達目標 ①疾患別のADLの特徴を理解し説明することができる ②動作分析を理解し動作のポイントを絞ることができます</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当、また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 動作分析について 3 FIMの演習 4 FIMの演習 5 脳血管障害の動作・治療① 6 脳血管障害の動作・治療② 7 脳血管障害の動作・治療③ 8 脳血管障害の動作・治療④ 9 神経筋疾患の動作・治療① 10 神経筋疾患の動作・治療② 11 運動器障害の動作・治療① 12 運動器障害の動作・治療② 13 整形外科疾患の動作・治療① 14 整形外科疾患の動作・治療② 15 まとめ 16 解説 		
準備学習	講義と合わせての演習になります、しっかりと復習しておきましょう		
教科書・教材等	日常生活活動の作業療法 クリニカル作業シリーズ		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	レポート課題5題(各20%)で評価		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	成績評価はレポートになります、提出期限内に提出するようにしましょう。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	福祉用具学	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	福祉用具 自助具 代償的アプローチ 個別性		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 福祉用具の意義と臨床で必要な制度、適合方法について習得します。</p> <p>到達目標 ①福祉用具の目的を説明することができる ②ADLと福祉用具の関係性について説明することができる ③福祉用具を代償的アプローチとして説明・使用することができる</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床では総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し、退院支援にも携わってきた。さらに臨床では、片手で内服ができる自助具を作成し、学会で発表。臨床経験から、対象者の生活機能を代償する自助具の選定、適用の手順、方法について教授する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉用具・自助具実践-バリアフリー展 2 福祉用具・自助具実践-バリアフリー展 3 福祉用具の概論 介護保険制度における福祉用具 4 福祉用具の種類と活用方法（起居、床上、移乗） 5 福祉用具の種類と活用方法（車いす、杖、歩行） 6 福祉用具の種類と活用方法（整容、更衣、排泄） 7 福祉用具の種類と活用方法（食事、家事、余暇、コミュニケーション機器） 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	普段の生活から代償的アプローチについて理解しておく。		
教科書・教材等	配布資料、福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	福祉用具を使用し代償的にアプローチする視点は、作業療法士の専門性を発揮する上で重要になります。本科目で生活を支える作業療法士像を学習しましょう。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	福祉住環境論	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	住環境 個別性 福祉用具 自立支援		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 住環境整備の意義と作業療法で必要な制度、適合方法について習得します。</p> <p>到達目標 ①疾患・障害の特徴や生活上の問題を捉え、必要な福祉住環境整備を説明することができる ②対象者の個別性を捉え、自立支援をのあり方を理解する ③在宅改修に必要な家屋図面を描くことができる</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 2016年 ひだか病院 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し、退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の生活状況と住環境整備(住環境整備の問題点と課題) 2 疾患別、障害別にみる住環境整備(脳血管疾患) 3 疾患別、障害別にみる住環境整備(関節リウマチ パーキンソン病) 4 疾患別、障害別にみる住環境整備(脊髄損傷・内部疾患) 5 福祉住環境整備の共通基本技術 6 生活行為別福祉住環境整備の手法 7 福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	普段の生活から家屋状況・周辺環境について調べておくこと		
教科書・教材等	福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法を実践するにあたり、対象者の家屋状況を知ることは重要になります。生活行為向上マネジメントの環境因子の分析を捉えることができるようになります。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	義肢装具学演習	担当教官名	谷村 浩子
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	義肢 装具 切断 適合判定 制度		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 義肢装具の意義と臨床で必要な制度、適合方法について修得します</p> <p>到達目標 ①各種義肢・装具の特徴を説明できる ②各種義肢・装具とOTの関連について説明できる ③各種義肢・装具の使い方や制度の概要適、合判定などの評価を説明できる ④各種義肢・装具を使用したOTプログラムを立案できる</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得 2023年教育学修士 専門作業療法士(手外科)2010、認定ハンドセラピスト(2009) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 2004年 第16回日本ハンドセラピィ学会 学術集会会長 2017年 第32回日本RAのリハビリ研究会 学術集会会長 2018年 第6回京都府作業療法学会 学術集会会長 2021年 第9回中部日本ハンドセラピィ研究会学術集会会長</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 義手の種類と適応 2 義手の部位 3 義手の適合判定 4 切断に対する作業療法 義手の操作訓練の実際 5 装具の種類と適応 6 スプリントの種類と適応 7 スプリントの種類と適応 8 まとめ 国家試験演習 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	義肢装具を必要とする疾患の概要を理解しておく		
教科書・教材等	教科書、講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 実際の義肢・装具、視聴覚教材等		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	義肢装具の知識は必ず身につけておかなければならなものです。予習・復習を行い十分理解できるようになって下さい。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	老年期治療学Ⅱ-1	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	老年期で発症しやすい神経疾患		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 老年期障害の特徴、疾患の特徴、評価、治療の流れなどについて習得します</p> <p>到達目標 ①高齢者で起こりやすい神経疾患について説明できる ②高齢パーキンソン病における作業療法について説明できる ③高齢者の転倒により発生する神経疾患について説明できる ④認知症高齢者の病態・診断・治療・介護を理解する</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 老年期における神経疾患① 3 老年期における神経疾患② 4 老年期における神経疾患③ 5 老年期における神経疾患④ 6 老年期における認知症と精神疾患① 7 老年期における認知症と精神疾患② 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	老年期における疾患やアプローチについて事前に学習しておきましょう。		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学 「老年学」第5版【医学書院】作業療法評価学(医学書院) 配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器(パソコン プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	高齢者に特徴的な疾患や症状について学び、臨床での作業療法士の役割について学びます。また国家試験問題も解くことができるよう学習していきます。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	老年期治療学Ⅱ-2	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	3年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	老年期治療 リスク管理 地域包括ケアシステム介護保険		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 老年期障害の特徴、疾患の特徴、評価治療の流れを実践的に習得します</p> <p>到達目標 ①老年期で起こりやすい内部疾患について説明する事ができる ②老年期で起こりやすい整形疾患について説明する事ができる ③骨折後の作業療法介入方法について説明する事ができる</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 2 老年期の循環器疾患① 3 老年期の循環器疾患② 4 老年期の呼吸器疾患① 5 老年期の呼吸器疾患② 6 老年期の消化器疾患① 7 老年期の消化器疾患② 8 老年期の整形外科疾患① 9 老年期の整形外科疾患② 10 老年期の整形外科疾患③ 11 老年期の整形外科疾患④ 12 老年期の整形外科疾患⑤ 13 老年期の整形外科疾患⑥ 14 老年期の整形外科疾患⑦ 15まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	授業前に前回の内容を復習をして臨んでください		
教科書・教材等	作業療法評価学(医学書院) 標準理学療法学・作業療法学「老年学」【医学書院】配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器(パソコン、プロジェクター)		
成績評価の方法	レポート課題(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	高齢者に特徴的な疾患や症状について学び、臨床で必要な評価や視点を習得します。演習を通じて知識・技術を高めていきましょう。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	発達障害治療学	担当教官名	富松 衛
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	反射・反応 発達評価 発達障害 脳性麻痺		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 発達障害疾患の特徴、作業療法評価と治療を関連付けて習得します。</p> <p>到達目標 ①人間発達の視点から各段階における健康問題や支援について説明できる ②各障害について理解し、評価・治療内容を考えることが出来る</p> <p>実務者経験 2016年に作業療法士国家資格取得。作業療法士として、病院、就労継続支援B型、生活介護、放課後等デイサービス等の臨床を経験。 公的機関・学校機関と協力し、社会生活への適応を支援する業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 正常発達 2 正常発達 3 脳性麻痺の評価と治療 4 発達障害の基礎 5 症例検討(集団療育) 6 症例検討(集団療育) 7 発表 8 発表 9 症例検討(TEACHプログラム) 10 症例検討(TEACHプログラム) 11 発表 12 重症心身障害児・者の評価と治療 13 重症心身障害児・者の評価と治療 14 遺伝性疾患 15 演習問題 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	授業当日か翌日中に復習をしましょう		
教科書・教材等	「作業療法評価学(第三版)」 医学書院・標準作業療法学 よくわかる発達障害のこどもたち ナツメ社		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士として、どの分野でも必要な知識になります。初めて聞く単語も多いため、予習・復習を行いましょう。 国家試験、臨床の知識に活かしていくように共に学んでいきましょう。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	精神障害治療学Ⅱ-1	担当教官名	服部 律子
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	精神科・障害特性・作業療法		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 精神障害疾患の特徴と作業療法評価・治療を関連付けて知識を習得します。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科で担当することが多い疾患の障害特性を理解することができる。 ・精神科で担当するが多い疾患に対する作業療法を理解することができる。 <p>実務者経験 医学部附属病院・総合病院精神科・介護老人保健施設・地域活動ホーム・認知症疾患医療センターなどで勤務歴あり。 作業療法士・精神保健福祉士取得</p> <p>文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「発達症への介入による国民的健康課題の解決」修了。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 神経発達症群に対する作業療法(評価と治療) 2 統合失調症に対する作業療法(評価と治療) 3 双極性障害・うつ病に対する作業療法(評価と治療) 4 不安症・解離症・身体症状症に対する作業療法(評価と治療) 5 知的障害・認知症・てんかんに対する作業療法(評価と治療) 6 摂食障害に対する作業療法(評価と治療) 7 パーソナリティ障害群に対する作業療法(評価と治療) 8 器質性精神障害・精神作用物質使用による精神及び行動の障害(評価と治療) 9 定期試験 		
準備学習	これまでに学習した関連科目の復習をしておいてください。		
教科書・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎重信(監) : 作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学(第3版), メジカルビュー社, 2021. ISBN: 978-4-7583-2046-7 ・新宮尚人(編) : 標準作業療法学 精神機能作業療法学(第3版), 医学書院, 2020. ISBN: 978-4-260-03944-4 		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	<p>精神科では自己を客観視することを要します。</p> <p>講義を通して、自己理解を促し、他者を正確に分析する力を養ってください。</p>		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	精神障害治療学Ⅱ-2	担当教官名	服部 律子
対象学生	3年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	精神科・障害特性・作業療法		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 精神障害疾患の特徴に合わせた作業療法評価と治療の計画と実践について体験を通して習得します。</p> <p>到達目標 ・精神科で担当することが多い疾患の障害特性を理解することができる。 ・精神科で担当するが多い疾患に対する作業療法を理解することができる。</p> <p>実務者経験 医学部附属病院・総合病院精神科・介護老人保健施設・地域活動ホーム・認知症疾患医療センターなどで勤務歴あり。 作業療法士・精神保健福祉士取得</p> <p>文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「発達症への介入による国民的健康課題の解決」修了。</p>		
講義計画・内容	1 オリエンテーション・演習:評価・治療(神経発達症群) 2 演習:評価・治療(統合失調症) 3 演習:評価・治療(双極性障害・うつ病) 4 演習:評価・治療(不安症・解離症・身体症状症) 5 演習:評価・治療(知的障害・認知症・てんかん) 6 演習:評価・治療(摂食障害) 7 演習:評価・治療(パーソナリティ障害群) 8 演習:事例(神経発達症群) 9 演習:事例(統合失調症) 10 演習:事例(双極性障害・うつ病) 11 演習:事例(不安症・解離症・身体症状症) 12 演習:事例(知的障害・認知症・てんかん) 13 演習:事例(摂食障害) 14 演習:事例(パーソナリティ障害群) 15 まとめ 16 定期試験		
準備学習	これまでに学習した関連科目の復習をしておいてください。		
教科書・教材等	・長崎重信(監) : 作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学(第3版), メジカルビュー社, 2021. ISBN: 978-4-7583-2046-7 ・新宮尚人(編) : 標準作業療法学 精神機能作業療法学(第3版), 医学書院, 2020. ISBN: 978-4-260-03944-4		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	精神科では自己を客観視することを要します。 講義を通して、自己理解を促し、他者を正確に分析する力を養ってください。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	身体機能治療学III-1(中枢系)	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	各疾患の特徴 作業療法の視点 治療プロセス		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 中枢神経(脳・脊髄)疾患の特徴と作業療法評価・治療を関連づけて知識を習得します。</p> <p>到達目標 ①医学的「治療と作業療法の関連について説明できる ②対象者に対する作業療法評価を説明できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 中枢神経疾患（脳血管疾患・頭部外傷・脊髄損傷）</p> <p>3 中枢神経疾患（脳血管疾患・頭部外傷・脊髄損傷）</p> <p>4 神経筋疾患（多発性硬化症・重症筋無力症）</p> <p>5 神経筋疾患（多発性硬化症・重症筋無力症）</p> <p>6 神経変性疾患（脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症）</p> <p>7 神経変性疾患（脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症）</p> <p>8 まとめ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	事前に教科書を読み内容を把握		
教科書・教材等	脳卒中リハビリテーション(インターメディア) 標準作業療法学身体機能作業療法学(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	対応する機会の多い疾患です。本講義では脳血管障害の概要、作業療法評価臨床での応用ができるレベルに達する。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	身体機能治療学Ⅲ-2(中枢系)	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	3年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	各疾患の特徴 治療目標 治療プログラム		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 中枢神経(脳・脊髄)疾患の特徴に合わせた作業療法評価と治療の計画の立案と実践を体験を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①対象者に応じた作業療法目標を設定できる ②対象者に応じた作業療法プログラムを計画できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	1 オリエンテーション 2 急性期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 3 回復期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 4 生活期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 5 中枢神経疾患(脳血管疾患・頭部外傷)に関する治療 6 神経筋疾患(多発性硬化症)に関する治療 7 神経筋疾患(多発性硬化症・重症筋無力症)に関する治療 8 神経筋疾患(多発性硬化症・重症筋無力症)に関する治療 9 神経変性疾患(脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症)に関する治療 10 神経変性疾患(脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症)に関する治療 11 循環呼吸器疾患 12 循環呼吸器疾患 13 治療プログラム発表 14 治療プログラム発表 15 まとめ 16 解説		
準備学習	事前に教科書を読み内容を把握		
教科書・教材等	脳卒中リハビリテーション(インターメディア) 標準作業療法学身体機能作業療法学(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	各項目の治療立案レポート(各20% 合計60%) 発表点(40%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	対応する機会の多い疾患です。本講義では脳血管障害の概要、作業療法評価臨床での応用ができるレベルに達する。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	身体機能治療学IV-1(運動・内部系)	担当教官名	谷村浩子
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	神経難病、がん、末梢神経損傷		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 運動器疾患や内部疾患の特徴と作業療法評価・治療を関連付けて知識を習得します。</p> <p>到達目標 1. 対象の疾患に対し、特徴を説明できる。 2. 医学的治療とOTの関連について説明できる。 3. 各疾患に対するOT評価を説明できる。 4. 各疾患の病期や程度にあわせてOTプログラムを立案できる。</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得 2023年教育学修士 専門作業療法士(手外科)2010、認定ハンドセラピスト(2009) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで):整形外科疾患全般、脳血管障害、神経筋疾患、癌など幅広い症例を経験。 2012年京都医健専門学校入職</p> <p>学会長等 2004年 第16回日本ハンドセラピィ学会 学術集会会長 2017年 第32回日本RAのリハビリ研究会 学術集会会長 2018年 第6回京都府作業療法学会 学術集会会長 2021年 第9回中部日本ハンドセラピィ研究会学術集会会長</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 関節リウマチに対するOT 2 関節リウマチに対するOT 変形性関節症に対するOT 3 がんに対するOT 概論・周術期・終末期 4 末梢神経損傷に対するOT 5 末梢神経損傷に対するOT, ギランバレー症候群に対するOT 6 皮膚筋炎・多発性筋炎・全身性エリテマトーデスに対するOT 7 糖尿病に対するOT 8 呼吸器疾患に対するOT 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	内科学、整形外科学等関連する疾患についてを見直しておくこと		
教科書・教材等	教科書、講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚教材等		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法を実施する上での基礎となります。十分な予習・復習を行って下さい。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	身体機能障害学IV-2 (内部・運動系)	担当教官名	谷村 浩子
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	神経難病、がん、末梢神経損傷、スプリント、治療手技		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 運動器疾患や内部疾患の特徴に合わせた作業療法評価と治療の計画の立案と実践を体験を通して習得します。</p> <p>到達目標 1. 対象の疾患に対し、特徴を説明できる。 2. 医学的治療とOTの関連について説明できる。 3. 各疾患に対するOT評価を説明できる。 4. 各疾患の病期や程度にあわせてOTプログラムを立案できる。</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得 2023年教育学修士 専門作業療法士(手外科)2010、認定ハンドセラピスト(2009) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 2004年 第16回日本ハンドセラピィ学会 学術集会会長 2017年 第32回日本RAのリハビリ研究会 学術集会会長 2018年 第6回京都府作業療法学会 学術集会会長 2021年 第9回中部日本ハンドセラピィ研究会学術集会会長</p>		
講義計画・内容	<p>1 関節リウマチ、OAに対するOTの実際 2 関節リウマチ、OAに対するOTの実際 症例検討 3 がんに対するOTの実際 リンパ浮腫に対するアプローチの実際 4 がんに対するOTの実際 症例検討 5 末梢神経損傷に対するOTの実際 6 末梢神経損傷に対するOTの実際 症例検討 7 脊椎・脊髄疾患に対するOTの実際 症例検討 8 上肢運動器疾患に対するOTの実際 症例検討 9 治療手技;スプリント作製 コックアップスプリント 型紙作製 10 治療手技;スプリント作製 コックアップスプリント 11 治療手技;スプリント作製 短対立、RIC 12 治療手技;スプリント作製 短対立、RIC 13 治療手技;スプリント作製 片麻痺用機能的スプリント 14 治療手技;スプリント作製 片麻痺用機能的スプリント 15 国家試験演習 身体機能障害学まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	疾患に対する基礎知識を有しておくこと。		
教科書・教材等	教科書・講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 実際のスプリント、視聴覚教材等		
成績評価の方法	提出物:症例検討レポート(70%)、作製したスプリント(30%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	国家試験にもよく出際される範囲です。しっかり理解して下さい。スプリント作製はOTに取って大きな武器になります。技術の習得に努めて下さい。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	高次脳機能障害治療学 I-2	担当教官名	掛川 泰朗
対象学生	3 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	高次脳機能障害の定義、意識障害、注意障害、半側空間無視、記憶障害、失認、失行、失語、遂行機能障害、社会的行動障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 高次脳機能とその障害、症状別の評価・治療法について習得します。</p> <p>到達目標 ①高次脳機能について説明できる ②高次脳機能障害の概要を説明できる ③各症状の概要と評価、治療法を説明できる ④各症状の評価・治療を実践できる</p> <p>実務者経験 約11年間、総合病院で中枢神経疾患を中心に高次脳機能障害患者に対してリハビリテーションを実施。大学院では、高次脳機能障害、特に右半球損傷の人物や自己身体の誤認について研究し、学位(博士)を取得。 2018年より大学で研究と教育に従事している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 作業療法プロセスの中の高次脳機能障害評価 2 脳画像の見方 3 注意障害に対する評価と作業療法 4 記憶障害に対する評価と作業療法 5 半側空間無視に対する評価と作業療法 6 行為・行動障害に対する評価と作業療法 7 遂行機能障害に対する評価と作業療法 8 コミュニケーション障害に対する評価と作業療法 9 視覚失認に対する評価と作業療法 10 評価から治療について 11 症例検討 1 事例紹介 12 治療 13 症例検討 2 事例紹介 14 治療 15 まとめ 16 定期試験なし、(レポート課題) 		
準備学習	授業前に次回分の教科書を一読すると理解しやすいです		
教科書・教材等	石川朗総編集、高次脳機能障害・実習(15レクチャー作業療法テキスト),配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	実技 プロジェクター・ホワイトボード・パソコン		
成績評価の方法	小テスト(30%) レポート(70%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	脳の機能と生活障害の関連づけを意識して理解する意識を持ってください。対象に寄り添うためには確実な理解と応用が必要です。単元終了時には小テストを予定しています。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	高次脳機能障害治療学 I-1	担当教官名	掛川 泰朗
対象学生	3 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	高次脳機能障害の定義、意識障害、注意障害、半側空間無視、記憶障害、失認、失行、失語、遂行機能障害、社会的行動障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 高次脳機能とその障害、症状別の評価・治療法について習得します。</p> <p>到達目標 ①高次脳機能について説明できる ②高次脳機能障害の概要を説明できる ③各症状の概要と評価、治療法を説明できる</p> <p>実務者経験 約11年間、総合病院で中枢神経疾患を中心に高次脳機能障害患者に対してリハビリテーションを実施。大学院では、高次脳機能障害、特に右半球損傷の人物や自己身体の誤認について研究し、学位(博士)を取得。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 高次脳機能障害の作業療法(概論) 2 脳の各部位とその機能 3 意識障害・注意障害 4 記憶障害 5 半側空間無視 6 行為・行動障害 7 遂行機能障害 8 コミュニケーション障害 9 視覚失認 10 社会的行動障害 11 高次脳機能障害 症例検討 12 高次脳機能障害 症例検討レジュメの書き方 13 高次脳機能障害・脳画像の国家試験対策① 14 高次脳機能障害・脳画像の国家試験対策② 15 まとめ・臨床で見過ごされやすい高次脳機能障害 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業前に次回分の教科書を一読すると理解しやすいです		
教科書・教材等	石川朗総編集、高次脳機能障害・実習(15レクチャー作業療法テキスト)配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 プロジェクター・ホワイトボード・パソコン		
成績評価の方法	小テスト(30%) 定期試験(70%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	脳の機能と生活障害の関連づけを意識して理解する意識を持ってください。対象に寄り添うためには確実な理解と応用が必要です。単元終了時には小テストを予定しています。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法管理学	担当教官名	辻井 智
対象学生	3年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	マネジメント 管理 組織 情報		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 臨床で必要な医療保険福祉の制度と作業療法の管理運営の必要性、方法論について習得します。</p> <p>到達目標 ①管理の基本である組織マネジメントを学び、チームの一員として求められる行動を理解する。 ②作業療法士に求められる業務内容と倫理・制度・キャリア開発について理解し、説明できる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行つてきた。</p> <p>資格: 作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 作業療法におけるマネジメント 2 組織の成り立ちとマネジメント 3 情報のマネジメント 4 作業療法と医療サービス 5 医療安全のマネジメント 6 作業療法業務のマネジメント(1)(人・物・経済性) 7 作業療法業務のマネジメント(2)(情報・時間・ストレス) 8 作業療法業務のマネジメント(3)(実践からの学び) 9 作業療法の役割と職域 10 作業療法士の職業倫理 11 作業療法をとりまく諸制度 12 作業療法臨床実習の理解と管理体制(1) 13 作業療法臨床実習の理解と管理体制(2) 14 作業療法士のキャリア開発(1) 15 作業療法士のキャリア開発(2)、まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	作業療法管理学入門 第2版		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士の職域は広がるとともに、リハビリテーションチームとしても多くの他の職種の方と関わるようになった。制度の理解やマネジメントについても求められる時代となっており、その基本は理解しておいてください。		

令和5年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	運動学Ⅲ	担当教官名	西林 賢裕・南條 千人
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	膝・股関節の運動学 脊柱・体幹 姿勢・歩行 運動学習		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 主に下肢の運動、バイオメカニクス、運動学習などについて取得します。</p> <p>到達目標 ①関節、股関節、脊柱の運動の概要が説明できる ②正常な姿勢と歩行、異常歩行について説明できる ③運動学習について説明できる ④ハンドヘルドダイナモーター、表面筋電計を使用できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 膝関節の運動学(南條) 2 膝関節の運動学(南條) 3 足・足部の運動学(南條) 4 足・足部の運動学(南條) 5 脊柱・体幹の運動学(南條) 6 脊柱・体幹の運動学(南條) 7 姿勢・歩行 (南條) 8 姿勢・歩行 (南條) 9 姿勢・歩行 (南條) 10 運動学実習 (西林) 11 運動学実習 (西林) 12 運動学実習 (西林) 13 運動学習 (西林) 14 運動学習 (西林) 15 まとめ 国家試験演習 (西林) 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	下肢・体幹の筋の支配神経・起始停止を見直しておくこと		
教科書・教材等	教科書・講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 骨格模型、視聴覚教材等		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	対象者の活動を理解する上で大変重要な知識となります。しっかり理解するようにして下さい		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野		
授業科目名	研究法Ⅱ	担当教官名	谷村 浩子		
対象学生	3年	履修学期	後期		
必修・選択の別	必修	授業回数	15回		
授業のキーワード	量的研究、質的研究、統計学の基礎、調査法の作成、実験研究の環境設定				
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 実際の研究活動を通して、各種研究法、統計処理、報告方法を習得します。</p> <p>到達目標 ①目標別に適した研究方法を選択できる ②目的に合わせた統計方法を選択できる ③調査、検査等の結果を報告できる</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 学会長の経験も豊富である。作業療法士協会の事例登録制度A審査員、学会の演題審査に長年携わる。</p>				
講義計画・内容	1 オリエンテーション・代表的な研究法と統計学の必要性 2 量的研究と統計学の基礎① 3 量的研究と統計学の基礎② 4 質的研究 5 調査研究と調査票作成 6 調査研究と調査票作成 7 実験研究と環境設定 8 実験研究と環境設定 9 小テスト・研究計画 10 研究計画と方法の検討 11 研究計画と方法の検討 12 研究の実際 13 研究の実際 14 研究報告の実際 15 研究報告の実際 16 定期試験・試験解説				
準備学習	特に必要ありません				
教科書・教材等	文献研究、配布資料				
授業の形式 教育機器の活用	講義 プロジェクター・パソコン				
成績評価の方法	課題提出・発表50% 定期試験50%				
担当教官から (履修にあたっての留意点)	実践課題(作成・実験等)は必ず守ってください。 グループで協力して課題に取り組む意識を持ってください。				

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	その他
授業科目名	キャリア教育演習Ⅳ	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	4年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	自己分析 課題解決能力 計画と実行		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法士を目指すための学業への取り組み方、臨床現場で求められる行動やコミュニケーション法について、体験を通して習得する。</p> <p>到達目標 ①自己調整能力を身につける ②自己の方略を身につける</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 1年間のスケジューリングと行動計画 3 臨床に向けての心構え 4 臨床に向けての心構え 5 自己分析 6 社会人基礎力の強化のためのロールプレイ 7 小論文を通して概要をまとめる 8 一般常識 9 面接力を高める、模擬面接 10 面接力を高める、模擬面接 11 就職イベントを通しての自己理解① 12 就職イベントを通しての自己理解② 13 就職イベントを通しての自己理解③ 14 就職イベントを通しての自己理解④ 15 問題解決に向けての方略 16 自己振り返り 		
準備学習	特記無し		
教科書・教材等	特記無し		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚教材使用		
成績評価の方法	レポート(自己振り返り) 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士として業務するにあたり、社会人基礎力をしっかりと身につけられるように努めましょう		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床実習V(総合臨床実習)	担当教官名	西林賢裕・学科専任教員
対象学生	4年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	360時間(5月8日~7月7日) 40時間:学内
授業のキーワード	作業療法評価・治療 症例報告 OSCE		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 臨床実習施設・指導者の下、実際の作業療法の評価・治療などを経験します。</p> <p>到達目標 一般的な特性を有する対象者に対して、医療人として望ましい態度で、作業療法実践課程(初期評価・計画立案・治療実施・再評価)を臨床実習指導者の指導の下に遂行できる。また、作業療法士として自覚をもった行動をとることができる。</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	<p>【臨床実習施設】 【学内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的態度 実習前 ・基本的臨床技能(評価・再評価) オリエンテーション ・基本的臨床技能(治療) 筆記試験(臨床推論) ・作業療法管理・運営 実技(OSCE) <p>実習後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例報告会 ・筆記試験(臨床推論) ・実技(OSCE) 		
準備学習	観察・評価法の復習、評価のまとめについて学習しOSCEや臨床推論を通して臨床能力の形成評価を行う。		
教科書・教材等	これまで使用した教科書		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	実習では、作業療法士の行動を学んでいることを忘れないでください。指導は真摯に受け止め、主体的に行動に移すこと。基本的な学生の身なり、立ち振る舞いに関しても意識してください。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野								
授業科目名	臨床実習VI(総合臨床実習)	担当教官名	西林賢裕・学科専任教員								
対象学生	4年	履修学期	前期								
必修・選択の別	必修	授業回数	360時間(7月24日~9月23日) 40時間:学内								
授業のキーワード	作業療法評価・治療 症例報告 OSCE										
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 臨床実習施設・指導者の下、実際の作業療法の評価・治療などを経験します。</p> <p>到達目標 一般的な特性を呈する対象者に対して、医療人として望ましい態度で、作業療法実践課程(初期評価・計画立案・治療実施・再評価)を臨床実習指導者の指導の下に遂行できる。また、作業療法士として自覚をもった行動をとることができる。</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>										
講義計画・内容	<p>【臨床実習施設】 【学内】</p> <table> <tbody> <tr> <td>・基本的態度</td> <td>実習前</td> </tr> <tr> <td>・基本的臨床技能(評価・再評価)</td> <td>・オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>・基本的臨床技能(治療)</td> <td>・筆記試験(臨床推論)</td> </tr> <tr> <td>・作業療法管理・運営</td> <td>・実技(OSCE)</td> </tr> </tbody> </table> <p>実習後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例報告会 ・筆記試験(臨床推論) ・実技(OSCE) 			・基本的態度	実習前	・基本的臨床技能(評価・再評価)	・オリエンテーション	・基本的臨床技能(治療)	・筆記試験(臨床推論)	・作業療法管理・運営	・実技(OSCE)
・基本的態度	実習前										
・基本的臨床技能(評価・再評価)	・オリエンテーション										
・基本的臨床技能(治療)	・筆記試験(臨床推論)										
・作業療法管理・運営	・実技(OSCE)										
準備学習	観察・評価法の復習、評価のまとめについて学習しOSCEや臨床推論を通して臨床能力の形成評価を行う。										
教科書・教材等	これまで使用した教科書										
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器										
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)										
担当教官から (履修にあたっての留意点)	実習では、作業療法士の行動を学んでいることを忘れないでください。指導は真摯に受け止め、主体的に行動に移すこと。基本的な学生の身なり、立ち振る舞いに関する意識してください。										

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法科総合演習IV-1	担当教官名	糟谷 圭吾・神志那 武
対象学生	4年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	人体の構造と機能 循環器系 消化器系 泌尿器系 呼吸器系 代謝 内分泌系 神経系 感覚器		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 生命維持にかかせない概念を習得し、本授業終了時には人体の構造・機能について説明ができるようになる。</p> <p>到達目標 どの領域においても国試レベルでの問題正解率80%前後を達成することができるようになる。</p> <p>実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を収める。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2001歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション・循環器系①(構造を中心) 2 循環器系②(生理学的範囲) 3 消化器系の生理学① 4 消化器系の生理学② 5 泌尿器系①(構造を中心) 6 泌尿器系②(生理学的範囲) 7 呼吸器系①構造と生理学 8 呼吸器系②酸塩基平衡 9 代謝①基礎代謝とエネルギー代謝 10 代謝②体温調節・糖代謝 11 内分泌系①総論系 12 内分泌系②各論 13 神経系の生理学① 14 神経系の生理学② 15 感覚器系まとめ 16 精神障害 基本症状 17 精神疾患の分類 統合失調症 18 精神疾患の分類 統合失調症 19 精神疾患の分類 気分障害 20 精神疾患の分類 気分障害 21 精神疾患の分類 神経症性障害 22 精神疾患の分類 神経症性障害 23 精神疾患の分類 人格障害 24 精神疾患の分類 人格障害 25 精神疾患の分類 物質依存 26 統合失調症 急性期 27 統合失調症 回復期 28 心理検査 29 心理検査 30 まとめ</p>		
準備学習	解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域の概念の先行予習		
教科書・教材等	「解剖学」改訂 第5版 医学書院 「生理学」改訂第5版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	演習 骨模型・視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	正常な人体の形態・構造、機能・機序に関する理解は作業療法士として必須項目である。臨床で不可欠の知識、十分な理解が望まれる。暗記に偏りがちな分野であるが、着実に学習して欲しい。講義内容が膨大なものとなるため、予習、復習は必須条件である。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野																																																
授業科目名	作業療法総合演習IV-2	担当教官名	山脇 昌																																																
対象学生	4 年	履修学期	後期																																																
必修・選択の別	必修	授業回数	30 回																																																
授業のキーワード	点ではなく線で覚える																																																		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 4年次に学習した基礎知識を応用できるように実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 どの領域においても国試レベルでの問題正解率80%前後を達成することができるようになる。</p> <p>実務者経験 直近では東京大学医学部で15年間、講師、准教授として教育・研究・実習・チーチャー制に携わり、満期退職後は現在まで京都医健専門学校で8年間 解剖生理学、一般臨床医学、国試対策授業に従事して授業、教育経験が豊富である。</p>																																																		
講義計画・内容	<table> <tbody> <tr><td>1 オリエンテーション</td><td>17 神経学</td><td></td></tr> <tr><td>2 心不全</td><td>18 脳卒中</td><td></td></tr> <tr><td>3 心不全</td><td>19 脳卒中</td><td></td></tr> <tr><td>4 心不全</td><td>20 脳卒中</td><td></td></tr> <tr><td>5 呼吸不全</td><td>21 高次脳機能障害</td><td></td></tr> <tr><td>6 呼吸不全</td><td>22 高次脳機能障害</td><td></td></tr> <tr><td>7 呼吸不全</td><td>23 神経筋変性疾患</td><td></td></tr> <tr><td>8 腎不全</td><td>24 神経筋変性疾患</td><td></td></tr> <tr><td>9 腎不全</td><td>25 神経筋変性疾患</td><td></td></tr> <tr><td>10 腎不全</td><td>26 運動器</td><td></td></tr> <tr><td>11 内分泌疾患</td><td>27 運動器</td><td></td></tr> <tr><td>12 内分泌疾患</td><td>28 運動器</td><td></td></tr> <tr><td>13 代謝疾患</td><td>29 運動器</td><td></td></tr> <tr><td>14 代謝疾患</td><td>30 低正解率問題演習・解説</td><td></td></tr> <tr><td>15 生殖器</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>16 生殖器</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			1 オリエンテーション	17 神経学		2 心不全	18 脳卒中		3 心不全	19 脳卒中		4 心不全	20 脳卒中		5 呼吸不全	21 高次脳機能障害		6 呼吸不全	22 高次脳機能障害		7 呼吸不全	23 神経筋変性疾患		8 腎不全	24 神経筋変性疾患		9 腎不全	25 神経筋変性疾患		10 腎不全	26 運動器		11 内分泌疾患	27 運動器		12 内分泌疾患	28 運動器		13 代謝疾患	29 運動器		14 代謝疾患	30 低正解率問題演習・解説		15 生殖器			16 生殖器		
1 オリエンテーション	17 神経学																																																		
2 心不全	18 脳卒中																																																		
3 心不全	19 脳卒中																																																		
4 心不全	20 脳卒中																																																		
5 呼吸不全	21 高次脳機能障害																																																		
6 呼吸不全	22 高次脳機能障害																																																		
7 呼吸不全	23 神経筋変性疾患																																																		
8 腎不全	24 神経筋変性疾患																																																		
9 腎不全	25 神経筋変性疾患																																																		
10 腎不全	26 運動器																																																		
11 内分泌疾患	27 運動器																																																		
12 内分泌疾患	28 運動器																																																		
13 代謝疾患	29 運動器																																																		
14 代謝疾患	30 低正解率問題演習・解説																																																		
15 生殖器																																																			
16 生殖器																																																			
準備学習	配布資料の復習を中心に行う																																																		
教科書・教材等	独自作成資料を使用する																																																		
授業の形式 教育機器の活用	演習 原則対面パワポ授業 状況によりMSチームズを使用した遠隔授業																																																		
成績評価の方法	定期試験はない。業者模試の成績などを卒業判定判断材料とする。																																																		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	国試では同一問題同一正解肢の出題はまずありません。丸暗記は意味がありません選択肢を一つずつ判断できるようにならないと、問題が変わると答えがわからなくなってしまいます。そのためには配布資料で、ある事柄に関する重要ポイントを線で理解することが重要です。																																																		